

フ今ノ議員ヲ統計ニヨリテ見テモ銀行會社ノ重役兼
護士諸公等ヲ五ノ千餘人ノ農民ノ農民ノ農民自
身ノ代表ハ只一人モナク之レハ列強國民ノ總志ヲ具
現スルコトハ出来ナイ私ハ之ヲ農民労働者會社等
職業ノ中カラヒ要當ノ代表ヲ選バシケルコト考ヘテ
此ノ方格ハ極メテ留學テアルト思フ人々ノ農村ノ状
態ヲ考ヘルト實際深ク出ル格キ一應ハ政治的責任ヲ果サシケ
レバトラン權利義務カアル然レモ此ハ寧キ内閣ニアルト思
フ五五〇万ト云ノ農民ノ選權カアルトアルガク絶対
多數ヲ内閣ヲ組織スルコトサヘ出来ル斯ク云フ者誠諦
ヲ立テ居ワシムカ一言農民ノ悲ヲ痛罵スレバ私ガ後味
如何カ立ツテシテモ私ノ非常ニ苦シクナリテ居ル風見サシノ如
キモ農民ノ為ヲ思フテ居ルガ如ク實出来ナイノテアル難ク
押シテモ合シテハ至ラズツメ方ガ良イト云フコトナリ

農民ト云フモノハ昔臣秀吉の代カヨ馬場者扱ヲサシ
テ居ルカヨ云ク悲慘ナモノカ農民ノ愚ハ大シクニシテ置
ク然モ根本的ニ改メテケレバト云フモノハ何処ヘリ
テモ合ジテアルカヨヤレバ一浮子星テマシルト思フサウニテ面
目ヲ一新大ニモト私ハ信ジテ居ル又貴族院ヲ廢止
シテ一院制カ適当カト思フ

次ニ政治ノ執リノ様式ハ之ヲ大ニ改メスルノ必要
ガアル今ノ政府ハ是カ國民ニ就イテ居リテセン諸リ國
民ニ離シテ居ルニテハ宣道制ハヤレナイニハ根本的
ニ改メテケレバト云フモノ

其ノ弊言フ具體的ト云レバ爲ニ吾々ノ地方的ナ立場カ
ヲ申上ヌス何ヨリモ先ツ今ノ地方長官テアルモノ雁首ノ
類ニナルヤオ此ニテ又或者ノ如キハ五ヶ月テ居ル大
レガ地方ノ爲ニ加リ者ヘラレルノ事ハ凡ソガサウテハナイ

地方ノ政是ノ大將ノ御降臨ヲモ授じルトモ此ノ爲メサ
セラレテ仕舞ス之レダハ其當ノ民意ノアル處ニ向テ其位
シヤルニトハ出来ナイ殊ニ地方ニ恒久的ナニトカ多クイ
五ノ年ノヤトノ年モ掛ル所ハ其路路治政ノ之レテモ其當
ノ年月ガ掛ルノテアルモ其レハ地方ノ民意ヲ無視シテ
三ヶ月位ニ渡ワテハ其様ガナク其ノ無責任ナル又地方
長官ト云フモノハ本事業等ヲ起シタルモノトテ其
地方ノ言状ハ至ニ下万弁許リノ豫算ヲテ其御意
ガ改竄サレシ後其御意ニハアノ建築物ハナク其御
意ニ諸公ナラバアノ奇蹟ヲ建築物ヨリモ其御意
疲弊シ何ト見ルカ私ハ其御意ニシテ其御意
吾性ハ木綿ヲ着テ居リニ久私モ村長子ノ様ナ相
ヲシテ居ルトト先生アノ建物の相見出来ルテモ
一ト官ヲ私ハ相見モ何モナク自分等ノモニシ

×十イカト 誑しテヤツメトカール
實ニ蒙村ハ 瀕死ニマ十イ 既ニ死ニテ居ん 斯ウ云
フ私ガ 氣ヲ 狂ヒ十イカ 他ノ者ガ 氣ヲ 狂ヒ十イカ 分ラ
ナイ 極ク 最近ニハ 昭和六ノ事 物ヲ各事 業トシ
テ 數十萬 年ヲ 出シテ 分ラントシカ 撥ヘタラシム
ク ラントシハ 何ウ云フ 爲ニヤルカト云ヘバ 詰リ 高
等 貴族 級ノ 爲メニ 新カノ 記者ノ 千一ムレト
高 等 級ノ 千一ムレトガ 陸 球ヲ スル 処
(以下 略)

夕縣會議負諸公ハ農民ヲアリマセン此ノ特
権階級ノ遊ブ為ニ二十三萬圓カ滿場一致ニ
可決サレタ

マダ斯ウ云フコトガアツタ私カ關係シタコトガ
アツタ他デモアリマヤヌカ

此ノ時被告林正三ハ腦貧血ノ為メ延下ニ擁セ
ラレ退場ス

賓ハ縣ノ農林課長ハ稀ニ見ルモノ、今ツタ人
テ私ト肝膽相照ス仲デアリ此ノ悲シムベキ農村
シ憂ヒテ居ラレ何トカ積極的ナコトカシタイト
私ニ云ハレタ何カアルカト云ウト先ツ農事試驗場
モナイ漸リアリトスレバ産業組合デアル課長
ハ私ノ意見シ徴サレタガ私ハ農村經濟ノ對策
シ眞實ノ指導シ為スニハ農家シ集メテ一ツ部

落ノ様ナモノシ造ルコトガ良イト思フ其際テ研
究スレバ指導方針シ確立スルコトガ出来ルト確
信シテ居ルト話スト私ニ「先生ニ於テ具体案シ
拵ヘテ見テ呉レヌケト云フコトニ為リ其処テ
私ハ早速具体案ヲ拵ヘタノテス

私ノ言葉テ言ヘバ理想部落ノ建設案テ農夫
ハ飯シ何杯食フコトカラ全般的ニ見テ五十乃
至三十位ノ部落シ起シ共同組合化スルト云フ
案シ立テタノテアルガ夫レハ賓ニ革命的ナモ
ノデアッタ

山田課長ハ夫レシ持ツテ農林會議ニ臨ンダガ
外ノ者ハ認識カナイカラ駄目タツタカ夫レカラ
高等官シ私ノ處ニ寄越シタノテ私ハ汗水ク
ニナツテ教ヘタノテ御座イマス

何トカ任様ト云ツテ居ルト知事が替り后ノ知事が来テ私
ノ案が根本的ニ改革サレ新島蒼葉案ト名付ケ僅カニ
四萬餘ノ豫算ヲ樹テ物下ニ理想形ヲ打立テ様ト
云フニトニナワタノヲ新ラシイ知事サンハ理解カナイ其処
テ山田サンハ心配サレ之ヲ政治的ナ力ヲ以テ押し通シタイ
ト私ノ処ヘマツテ来テドウモ县令が悪イ折角ノ新島蒼
葉案ハ難カシイト云フノテ風見サンノ処ニ毛端ニテキ
同見サンニ今言ツテ其ノ話ヲシマスト其ノ前ニ或方面カ
運動阻止ノ運動が来テ居リ私ト風見サントガ蒼葉ノ
運動ヲスルト他ノ县令が悪イニトニナル云フト憚ルト思
フカヲ云ヒマセンガ風見サンハ今及ハ县令が悪イト云ツテ
判ラレタ其処ヲ権者先生ノ処ニ来テ話ヲスルト流石ハ
権者先生外ト思フ夫レハ天下ノ一大事外ト云ツテ時
々内務大臣デアリツタ安達強我氏ニ命ヒ私ノ新島蒼

新島蒼葉案ノ経過
ノ
ノ

業業より芸術的ハ差シカワリ銀力官銀等官銀等
上申書トシテ出スト権後サンガフロデレタガ時ノ預
知ハ然此ハ安キサンガロツ出スト却ツテ悪イ夫レテ同見
サンノ外ノ人ニ飛ニ殆ンド一週有ハ特ナイテ復レシ
ムテアリマス

然レ結果ハ豫期シテ様ニ怨シムキ結果ニ終ツタニ夫ニ
怨シムト云ツテモ尚餘イテアル斯ウ云フ事ヲ云ヘル時ニ根
本的ニ政治執リノ様業ヲ改革シテ今トラント思フノテ中
産イマス

時ニ年系十時五分又お長ハ十五分有ノ休憩ヲ宣ス
合十時四十分再開

同経済組織ニ依テノ被害ノ意見ヲ少キタイ

答 何ト云ツテモ重点ハ経済組織ト思フヨリ今ノ形ニ於テ
経済組織ハ何ウスバキカト云フニトニ及ニ至ラシ墨カナケレ

ハナラント解セラレラス

其処テ私ハ却テ市爲ニシテ其安んずルハ中世ノ勞力トナリテ其
イテ吾ノ流通經濟組織ニ何ニテ功効少クテ來タカト云フ
ニトテ吾國ニ傳テトハ思ハテハ吾國ノ過渡ニ在テ市場
包融市場勞働市場一切ハ市場ガ爲メノ組織ニ要ス
ナケレバナラナイト云フニトハ其理ニ由カレト認メテ居ル
然レテ所謂非常ノ罪僱スルニテトクテ許シテ置カト
大衆人勿論ノ下ニ僱本家自其自身ニ在テ是レヲ行ルニ
罪ハ不裁ナリルニ其理ハ大衆ノ之等ハ利益ヲ得ルニカ
附クテイテ或時ニ人々僱本家自其自身ニ在テ是レヲ行ルニ
然レバ組織的ニ適シテ其理ハ大衆ノ之等ハ利益ヲ得ルニカ
出スルニイテ其理ハ大衆ノ之等ハ利益ヲ得ルニカ
ナリ自由經濟ニ過テ去リテナリカ之ヲ行ハルニカ
云フニトハ官製ニナリヤルリ得ナイト存スルニカ

自由經濟ニ過テ去リテナリカ之ヲ行ハルニカ

5

年幾り政治ト事績ハ合シク非常經濟ハ資本的體
占リ國民化スルニトカ眼目テアルト考ヘテ居ル非常經濟
ト及候リ如何ナルカ格ニ依リ國民化スルカト云フニトハニ
階級ニ移リマス斯ウ云フニ吾際問題ハ一ツノ理論カ
割出スニトハ危險テアルト思フ以テ非常經濟ノ無政府
的ナルモノヲ國民化スル運動ノリハレテ居ルニトシ私ハ認メ
テ居ル全階級ニ私ハ一ツノ格カ示サレテ居ルニトシ認メテ
居ルニツノ異ルニカ格ハ何ウ云フモノカト云フト一ツハ國家ノ
権力ニ依リテ以テ非常時經濟管理ヲ根本的ニ變革シテ
計畫經濟ナルモノヲ極テルニ云ハ一ツテ中理イニスモノ一ツハ
國家ノ力ハ直接ニ公平共ニシテ以テ非常經濟ヲ國民化
家共ニ自身ノ限力ニ新ヘシメルニ一ツテアル、等ノ者ナ
ルモノハ中義外ノ通リ一ツテアニカケル計畫經濟ナルモノ
テ一リテ二者ハ世界一列ル処ニ一ツハ列ル処ノ共同組合等

為す所望イラス 私人探り少ト欲スル處ノモノハ中ニ
又進リ得ニノモノテアワタテ中絶イラス 橋樑ニテ私
加ニ進ラハ所謂計費經濟ノ口レア的ナルモノヲ尊重シ
ニテ採ルカト云フ 私人意見ヲ尊重ニ云ハバ口レア
計費經濟ヲ以テ非常經濟ヲ撤廢スルトハ理論的ニ徹
底シテ居ルト思フカ以テ計費經濟ヲ徹底的ニ進
スレバ橋樑進ニ移轉シ一人ノ人種自由獨立ノ
イデヤラサケレハ到底ハ口レナイト思フ 現ニ口
レシアハ生々ハ
勿論農業進ニ工業化シ努力尙存化スルト云フ方
採ラ
テ居ルニハ到底ハ口レナイトハ昨日モ一
言シタテアリス
之ヲ日軍ニ強クリスルニトハ制シテ
其集スセニ斯ク
之ヲ強ク
スルニトハ
口レシ
アハ
國家ヲ強
制シテ居
ルハ所謂
工場
労働者
加カ
カト
式ニ
政府
力ヲ
用ヒ
テ居
ル
斯
様
ナ
ト
カ
ト

或ハヤルト本業ノ人召ノ物貨釣總望ヲ滿タスニホクモ
或ノ頃等入レテ榮レルヲ履シ一如此ハ重スギテ却テ腹ヲ忍
クスルガ農民等ハ甚ニナニ甘味イモノハ食ムヘラレナイテ
アルカト式ハ如何ナル觀感カヲ見テモイケナイト云
ハ考ヘル

甚處テ私ハ之以上申上ル必要ハナイト思フカロレバノ極
ナニトハ断ニテ探ルベキモノデハナイト断セザルヲ得ナイ次第
ヲアリス

夫レテ私ハ次ニ然ラハ共同組合法ニ依ルヨリ外ナイト思
フ以一方格ニ新ハテ只今ノ弊利本位デ何デモ構ハナイ
國家デモ何デモ其ヲ化爲ヘト云フ之國情ナ關係ヲ變
革シ或ノ市場經濟之國民化ニテリクニトカ日本ノ採
用スルモノデアルト思ハレル實際ニ即シテ統計ヲスルニ
共同組合運動ト云ハ英國ノ消費組合ヲ聯想スルト

思ふが詰りて界一博覧組合ノ製造ノ過程ニ付テ一言止
スレハ英國ニ在ルルコトハ千ペールノ組合ハ一八〇四年ノ際ト記
憶シテ吾ルカ十八世紀及十九世紀ニリハレタリトテ上巻ニ記
シテ産業革命トテ農村ハ破壊サレテ一都ハ半國ニ進ハレ
残リノ農民ハ工場ニ進マレテ工場家ト計スレタリテ労働者
ノ中ニ出テマレテ他種ノ労働者トシテ労働者トシテ
イノニ及比倫シテ夫レノ際メナモノテアツタリテ其レノ
ニ事ニ強クシテ労働者トシテアルニテ一人ノ労働者ノ
ラスニ博覧組合ノ進歩ヲ記シテアリテ其レノ何ニ
ラ十ノ労働者カ十労働者ト出シテ今ツテ四ツ千ペール
一軒ヲ借りテ夫レノ其ノ月ノ薪トシテ必要品ヲ節制カ
ワテ小資本家トシテ十八人が現存テ四ツ千ペールト
夕ニノ利息ヲ取ラテストアノ一經ニテ其レノ引
金ノ四分乃至五分ノ利息ヲ引テ余分ヲ貯蓄スルニ

概かして組合員に割戻すと云ふことにして今一様式として
合致遠くは資本の高に依りて決定して之に譲り私としてハ
壹々得たり方と存じマスが然し之ハ若し之を無しニハ出
系十パーセント之を一割ハ他者十割に授けマシタガ業種が概
して一系乱して大株よりワタガ合致を種々利益を多ク
クナリ種々製造に近手ヲ延シテヤリワタ二十ノ年評り
経キマス工場都市にトシテト取引し聯合し卸賣
ストアワタル様ニナワタマスワトシトゴモイケラシト
テモナリハレ組合員ハ三五業人ヲ擁し資本を十億ト
ルノ金額ニ上り戦後テハ五五業ト云フ數ニ上りて資本
本ノ如キハ尭大十モノテアル戦後テ困ツシハ落り様ヨ
リニ食料テアル等一時六ヶ月間々完全ニ喰止メルニト
カ出来タ消費組合ヲ無視スルニトハ出来ナイ様ニナリ考
佛党内閣ニハ消費組合員ニ關係し椅子ヲ其ハナケレ

ナリナリノ様ニ為リ「レドニ」ルキハ國家ノ中ニ一國家
ナリトサヘ云ハレテ居ル程デアルノデアリニズ
然レテ遊費者等ノ組合文ヲハ繼ノ一面デアルカ
カヲ見ルト百毒ヲト殺シ階級ニリクニトニ為リ日本
ナリハ其方術者等ヲハナリ月給取リモ加ハラナケレバナ
都市ナリハ繼ノ一面デアリ何ウシテモ農村ヲ組合化
セシメナケレバ其等ノ情勢組合ハ出来ナイ之ハ何処ノ國
ニ出来ナイガ何ウシテスルカト云フト私ノ前ニ現ニ
ニ現レタ「ハ」デンマーク「ノ」農村組合デアルガ此ノ組合
ニ違ニ付テ申上タイ「コ」デンマーク「ハ」極メテ物價
ハ廉ニシナイ國デアリ理イマス私等ナ人等々ノ國デア
ル戦争ニ依リ一時國家的破産ノ極ニ臨キタルハ他國
現在ヨリモ此ノカウソ國ハ獲ラレ何又モ此ハ丁ク國力ヲ
培養シテ捲土重来等ハ到底出来ナイ之ヲ恢復スルニ何

ウズレバヨイカト執理ヲ棄ケテキ人ト云フ執理ノ意見ハ電五所
ト云フ團體が出来テ農村ノ共同組合が發祥シテ市ノ裡トマス
云カ何ニテ之を發展シタカト云フト曰ク現下ノ農村ニ至大ニアリスレ
テ説服ヲ加ヘマスレバ農牛組合農林組合農鶏組合ヲ起シテリウ
クニトハ謂フ其を以テ子ヲ如ガアルト存ジテ居ル一マス「ロンドン」ニ於
テ農家ニ於テ五千萬トルニ至ルニテ歐羅巴ノ市場ニ出シテ居ル大
シカラ畜産組合ニ至キツ置キ「ロンドン」ニ於テ鶏卵等ノ年々五億萬
兩宛輸出シテ居ルニテアル畜産ノ原料トシテ畜毛大切ナ至リ
買フ場合ハ直接海濱ノ方ヲ買入レ農民ノ手ヲ豆粕製造會社
ヲ推ヘ油ヲトリ豆粕ハ農民が分々各ツテ居ルニ至リ日本が學ブ
ベキ処外ト思フ「ロンドン」ニ於テ市場ヲ「ロンドン」ニ持ツテ居ル
ガ「ロンドン」ノ經濟が昇リ控重ヲ置ハレルト思フカラ、其ノ市場
ヲ失フモノト思フが日本ハ農民五千萬ノ大家ガアルニテアル
カラ日本トシテハ畜毛惠マシテ居ルト信ジテ居ル次第テアリマス

斯様ニシテ金融モ良クナリ労働者モ自管工場ヲ打立テ
ルコトが出来ルサウスレバ労働市場ハナクナリ控死モ無ク
ナリ之様ニ國民化シテ市場一般干渉が出来ルト思フ。
以テ無政府の経済組織ヲ根本的ニ改革シナクシテナ
イト思フ。他ノコトハ決シテ問題トシテハ足ラナイト思フ
又前ノ方面カラ見ルト如何ニ組合が發達シテモ組合ニ
シテ委セテ置ケル又恐口ニキ結果ニサ落ケル。現ニ「キユーパ
ニ在ル」日英が独占的ナ米ノ徳ありテ主張スルト農村ニ又
都市ノ組合ニモ要影響細音ヲ及ボスコトニナルカラ之ヲ是
ニ統制セシメルノテアンモ多事業等ハ國民生活ニ非常
ニ影響細音ノアルモノハ國家がヤルハキタ。又果進的視
望シテ民衆化サセナクシテハナクナリト思フ。又國民共同
作ニ於テ是法ヲ擧テ土地ニ委任セシメナクシテハナク
ナリト思フ。之カ私
ノ改造法也ホデアル

其ノ大任ノ大綱ヲ述ビテ其ノ要ヲ示シマス。

大判長ハ以ノ程ニテ休憩トシマス。午後零時五十分カク西席

ニコト宣ス時ニ午前十時四十五分

以ノ時亀山ト云ハシハ先程ノ般若經ハ十五段迄迄テ来リ

夕橋君ノ云ハレタ様ニ多ク大ノ勸告ヲ要シテアリマス。一

市情覽ヲ取ヒテト思ヒマス。ト云ハレニ神地大判長ハ

「拜見ニマス。ト答ヘタリ」

午後零時五十分西席 以ノ時午前十時中 腦貧血ノ為メ退

廷靜養中ナリト報告 森三ハ元氣恢復ニ出延シ

タリ

向、午前十時ニ引續キ社会改造具体案ノ中ノ教育組織ニ

付テ、

答、吾ノ案ニ申上ケタキ事ガアルノテアリマス。夫レハ

アリマセン。私モ以ノ運動ニ就テハ早クカク企テ、

吾ハ

ノテアリマスガ私か実験とマス皆ニ其ニ華々といモノテ尚
查イマス、

水戸市ニ高等算学我カアルガ其也ノ案ハ存案ニ三ノ年足
ラズノ生徒ヲ收養ト夫レガ暫ク前ニ三千員許リ借金
ニテノテ物ヲ廉ク買フ為ニ非常ニ其ノ借取テ入レル様ニ爲
リ夕為ニ商人ハ之ニ對抗ト夫レカテハ商人ハ却テ物ヲ高ク
賣ル様ニナリ夕ノテアル、私ノ親友ガ先生ノ力ヲ所トカラン
カト云フ活テ私ハ何故夫レニ乘出カカト云フト私ハ生徒
三ノ名ヲ以テ借取金ヲ結成ト又其様ニ夫レヲ延ハス心
算ヲ以テ夕勿論僕ハ商人ヲ排斥スルモノハ十ノ一ノ野暮
ハ勿論出来んカ平均隊肉ハ出来ナイノテ困ク夕ガ之モヤ
レルト云フ確信テ私カヤレトニシ夕其結果私ハ死モノ狂
ヒテモ夕夫レヲ一ヶ月ヤルト三千員ノ借金が六百萬ニ減ク
夕夫レテモ私ハ幾ラカ儲ケ夕ノテス一萬圓ク夕ノハ平均

ヤ胸肉がとろとろの餌をトモを殺ス。二番殺科ヲ云フ
シユトニナルノテ止ムヲ得が、高キ肉包カテ買ツタノヲ云
夕が和ハ之レデハ三万箱位扱ヒタルトニナリコト云
教育組織ニ付テ申上ユヌカ和カ考ヘマヌルニ教育者ノ状
態が疑ハレル様ニナルト思フ。昨日ノ日本ヲ建設スルニハ
教育ノ力ハ如何ニ大キナ力カアルト云フコトデアル。昨日
ノ日本ヲ想像スル時ニ教育がモノ申シテナケレハナラズ
ト思フ。デアリヌス。最初ニ人物ヲ造ラナケレハナラズ和ノ
友人デ大志ヲ出ス者ノ話デヌカ。今日ハ大志ヲ出ス者ノ使命
ヲ失ヒテ居ん。今日ノ技術者養成所兼職業紹介所ニ過
ホナクハト歎カレタカ。和を令感アル。如何申スニ及ハヌ。学
生ノ教ノ良キ者程口ニ革命ニ投シテ口ニアテテ
シト云フ様ニナル。之ヲ亡クシト云ハズ。何バ和ハ振込的
ニ改革ヲセヌ。ナラント信ヒテ居ん。デアル。

第一只今ノ教育ハ金が毎々しハ教育が出来る事ト云フ
コトニナラズニ是れニ農林教育ニ至リテハ才識ニナラズ
イ今ノ教育ハ却テ農林ヲ汚毒ト云フコトが如
まに也此れが通 村々ニハ立派ナ学校が有ルが
ヲ見ヌスト亦ニ悲シムベキ現状ニ在ルト思フ小学我ノ教
師ニナルモノハ如何ナク老ヲ以テ教師ニナルカト云フト
其ノ的ヲ過シテ勤勞力生性ヲ失ル様ナ教育ハ快
テ至テ今 和ハ地方ノ昔々年ニ農林問題ニ付テ議論
スルカ其ノ終ハ「晩鐘」ノ繪シテ掛ケテヤルコトニ
カ晩鐘ノ繪が了レカト小笠原校等ヲ寫シテ強シド
クノアール

何皆ヲ之描ケテ至ルハ是レは年々ヤ徳川家系等ノ
所謂紅眼者ノ像ヲ描ケ難志ハ「キン」ガレトカ成ハ信
善ノ富兵ヲ切テテ教室ニ懸ケル事ト云フ、其ノ

云フ教育デハ農村ノ子弟ヲ教育目ニシテトハ出来ナク
小舎我ハ良クデアリマス中等的ナク不潔農学校ノ
如キニ至リマシテハ其ノ農学校ヲ出ルト肥桶ノ近所等
ニハ寄リ附キマセン専門学校ヤ農科大学ノ如キモ其ノ学
校ヲ出タ人達ハ何ラナカ偶々私ノ校ナ者ガ飛出シハ狂
人扱ヒニスルカ現在ノ様ナ状態ハ却テ農村ヲ害シト
仰キ壞シテ以テ存リマシテハ何ラニレバ良クカト云
フト農村ノ救済ヲ捨テ、最クコトハ出来ナク農村経
済ニハ窮乏ニテ居ルカ第一ニ農村ニ新人物ヲ養成シテ
ケレバナラント思フ新人物ノ養成ハ人格ノ養成ニ在ル
ノデアラン其ノ学校ガ必要デラン技術ノ学校ハ一切農業
ノ實際ノ学科ヲ教ヘ人物養成ノ学校ハ徳ヲ以テ人格
化スルノデアランカテ史ニ至ルニ社会科学ノ学校同ク教ヘ
ル必要ナランソレヲ以テ農業大学ヲ建テ、自ラ道ヲ示シ

勤力トナツテ以テ其ノ業ヲ施サシメテト同クノ業ニ
金カ無クテハ学校ニ送入レナイト云フガ金カナク共ニ幾クテ
テモ送入シムル様ニナシレバナクテ人ヲ大ニシテハ一人ニ十
餘医科ノ如キハ四年其ノ卒業ガ員担ヒテ居ル之ヲ多クシテ
者ニ普通化スルノ方ナリ
却市ハ余張リテ人信ヲ与ヘト思フ其ノ新人物ヲ以テ
ヤシハ私ノ却結ニ依テトカ出来ル共同組合運動モ
出来自任向且モ出来ル現ニ英子ノ若幼者ハヤクテ居ル
様ニ若幼者ノ子弟ニ根柢的ナ教育ヲ改善ヲスルヨリ總
ニハナリ尙農林ニ於テハ男子ヲナク女子ニ対シテモ今様
ノ教育ヲスル必要ガアル人今ノ農林ノ女子ノ状態ハ何カ
ナカシキニモリ候テ尙進イマスハ以テ其ノ暗澹ニ咽カシク陸
女子ニモ新ナリシ教育ガ必要ナリト大任以上ノ様ナク
第ニ尙進イマス

内 其ノ後ニハ共協組織ニ於テ

答、私ハ考ヘヌスニ何レノ時代ヲ同ハズ疲弊が甚ダシク
善徳的ニナリテ来ルト云フ能ハクナレバナリト
云フ當レノ状態ニナリテ来ルト云フ能ハクナレバナリト
云フモノカク来ルト云フ能ハクナレバナリト
抱キテ川ノ中ニ身ヲ次々ト云フニトハ今カニニ日暮
飯事ト云フ様ニナリテ吾々私ノ学生時代ニハ自殺等ハ
新等々ニ大キク書キテ今ハソレハナリ其処テ何レ
と云フ之ヲ何トカニナレバナリト云フト私ハ共協主義
ト云フエトハ判ラナリト云フカ其心ヲ以テ何カハ宜敷ク
第ノ責任ニ於テヤニナレバナリト云フニ云フ意又ク抱キテ吾々
其処ニ具体的ニハ何レモ而モナレバナリト云フニ云フ意又ク
除失業保険、火災保険、生命保険、生命保
ノ力ヲカキ去レテ今ハ何レモナレバナリト云フニ云フ意又ク

才互が才互ノ引出キヲ敵ヲトカシキルト思フカ之ハ其最良
戦ノ一大進歩ナリ其協主義ヲ示シテト思フ
今迄進歩其協組織ハ格極弱ト一面ヲ極強トスルハ
日英人ノ体格ヲ向上セシメ其防上ノ集ヲ示シテ其最良
陸軍ノ集ヲ示シテ其最良ノ一強ヲ示シテト思フ又
冠帯新鋭ナリ之ハ國々々々ガ甲ノ在ナリ其最良
ルト人ガ集ヲ示シテ其最良ノ一強ヲ示シテト思フ又
大十協定ニスル之ハ其最良ノ一強ヲ示シテト思フ又
要領ナリ其最良ノ一強ヲ示シテト思フ又
合セシメ其最良ノ一強ヲ示シテト思フ又
大軍地上ナリトス

尚其後ニハ国防組織ニ就テ

等申立ニスルハ其最良ノ一強ヲ示シテト思フ又
凡何政ト云フニ其最良ノ一強ヲ示シテト思フ又

414
文壇の擡げられざるは其の極まるに非ざるや一切ありおのり
けしむす又夫しニハ先少の歴史主義制をク一考をすしんば
ナラ又の戦争の避けるが避けるにすしんば口を騰るすもヤラ
ナレハナラ又私ハ考へん暇白に於てモ即ち一〇〇〇〇〇
軍港ニ巨艦ヲ打ち放すしんばナラ又
太平洋の向つて一〇〇〇の軍港ニ支さうアアん之ヲナラト兵高
ノ平和ヲ求めんコトハ出来ナラ一はモ早ク亞細亞ノ使命ヲ
通じテ世界ノ全カラしめん島防ヲ必要トせんモノナラレ何
らスレハ良キナラト云フト島防ヲ島民化しナレバナラト云
フ事ニ一致ナラナレバナラト云フ是れ亦ニ私ノ考へん
申上レバ島防ノ島民化ヲナレバナラト云フコトナラレ島民
問題ニ付テ考へテモ島民化ノ子孫が戦争ニ入りしんば何
女ヲヤレルト云フノナラナラト云フ今ノ極上状態ナラレ何
らスレハ却會ニ出テ下女ニせんハ何カ勿論農業ハ若し

二、遺ヒナリが農村が十ヶレハ未ニ何モ出来ナイガヤナリカ農
村婦人ハ教文ヲ向ニ廻ハレテ任セシムルノガ在リテハ全
部掃スレテ南キ、上ニ日ヤ細テ仰キ人全ク仕テ、姑小
姓ノ若シメラレテモ、現代ノ婦人ハ農村婦人ヲ思フト未
ニ換カ出レ、欠地カヲ凡クニ集リテ見テ改善モ十ヶレハ
ナラント思フ。

向、之カヲ今述ニ社会改造ニ其作案ノ述カク、其ノ改造案ヲ懷
クニ至リテ、其意ヲ精簡ニ於テ、本條約ニ序説、農村ノ崩壊
ノ根由ヲ明シ、其ノ弊ヲ示シ、其ノ批判ヲ示シ、其ノト云フガ如
ク、其ノ序説ト云フモノニ付テ

答、大分ニ付

- 第一、(1) 知識ヲ示シテ、其ノキヲ示シ、其ノ
- 第二、(2) 知識ヲ示シ、其ノキヲ示シ、其ノ
- 第三、(3) 知識ヲ示シ、其ノキヲ示シ、其ノ

今日ノ改造長ホヲ懐クニ至クハ、其五期ノ昭和四年以後
ノ工トテ極大ヲ短クシテ於テ爲サレタノデアル。
昭和十二年後社會ハ急激ニ下ノ力ヲ以テ考化スルト
言フコトヲ以テ只今ノ際ト改造思慕ヲ懐クテニ十ノ
テアリマス、社會状況カコンナニハ必要的ニ改造運動
カ起ル私ハ革命即ト云フ言ハ嫌クシテ之ハ支那ノ天意
ニ及ビテ古キテアルリキハ夫レハアリ得テキ其也テ私ハ
改造ハアルカ革命即ハ十ノ以テ之ハ状態テハ改造運動
カ起ラナクシハナラント思フキ然レト起ス強クモ以
カク西洋ノモノヲ持テキキテ三モ勿論カキテキ、社會ハ
有機的組織カ、モノテアル所カニ欠陥カアルニテ盡ヒキ
ト云フ、テ、社會ノ病状態ノ病根ハ何処ニアルカト云フ者ハ
ニ十ノ第一ニ人言ノ病根ト云フ、死ニテハ其目カ
色々ナコトヲキテ病根ヲ發見スルノテアル之ハ、其也

ニ於テ是ナケレバナラシキ其ノ脈ヲトツテ是レニ代表的ナル病
トシテハ

1. 人口食料問題

2. 失業問題

3. 平民社会経済再建

此ノ三々ノ病根ヲ掃ヘテガツト大膽ヲ揮エト日本ノ
繁榮的ナ社会組織ノ根柢ハ塌セ公ニテ崩壊スル
トナラヌトシテ私ハ敢て云フ

其也カ一オ申シケラスガクモレサスレモクモレ一以下均等

クス」モ殊ニ「マルクス」ノ資本家的生産關係ニ於
テ搾取シ搾取サレテ居ルモノハ日本デハ僅カニ二百万
ノ勞働者ダ此ノ二百万デハ日本ハ危殆ニ類シテハ
居ナイ夫レハ農村ニ在ルノデアル也、中ノ識者ト云
フ識者ハ重大ナ農村ニ氣ガ付カナイ、診斷ト
治療ト豫后トガ一致シナケレバ病氣ハ治ラナイ
故ニ根本的ナ改造ガ必要ダト云フコトニナル
此ノマ、ニシテ置ケバ日本ハ死ンデシモフ夫レ故
病氣ノ性質ヲ根本的ニ明確ニシナケレバ、
故ニ農村崩壞ノ根本ヲ統計ニシ始メタノデア
ル思想界ヲ支配シテ居ル「マルクス」主義デア
ルガ日本ニ於テ之ヲ取入レ如何ニ「マルクス」ガ
間ニ
ツテ居ルカト云フコトヲ申上タイト存ジマス
オ判長ハ之ヨリ十五分間休憩シマス ト宜シ

休憩ニ入ル時ニ午後二時

午後二時三十分再開

問 夫レデハマルサス主義ニ對スル批判ヲ

答 エルサス主義ニ付テ搔摘シテ申上マスト一般大
衆ハ食フニ困ツタリ流行病ガ猖獗ヲ極メタリ
戦争ガ起ルコトハ人間ガ増殖力ガ多イノニ拘ラズ
食料ハ歩調ヲ合ハスコトハ出来ナイ即チ必然
的ニ食料ノ範圍内ニ人間ノ増殖ガ制限サ
レナケレバナラヌ此ノ調節ガ疾病アリ戦争デ
アル然ラバ吾々ハ道德的ニ産鬼制限ヲ爲
スバキ事ト云ハレル之ハ人口食料問題ノ原理
トシ、代表的ナ大理想デアルト云ハレテ居ルガカ
ーライルガ云ハレル様ニ噫暗黒科學デアルト
思フ

吾々ハ困ツテ居ルカラドンドン子供ヲ生メバ良
イ等トハ云ハナイガ「マルサス」ハ相當ナ信仰者
有シテ居ルト云フコトハ寒心ノ至リニ堪ヘナイト思
フマルサス主義ハ如何ニ間違ツテ居ルカト云フ
コトヲ英國ノ状態ヲ一瞥目シテ見ルエト云フ亦諍
ヲ願ヒタイ早イ話ハ「アイルランド」ノ状態ヲ思
ルト判ル「アイルランド」ハ農村ノ國デアルガ昔ハ
人口凡ソ八百万人デアツタガ英國ノ資本家ノ手
ニ移ルト共ニ人口ガ減テ行ツタ農民ガ多過ギ
テ減ツタノデハナイ「アイルランド」ノ農村ハ「イングリ
ンド」所有一般ニテシマツタガ英國ニトツテ「ア
イルランド」ノ農民ノ殖ヘルノハ其ノ權カヲ増スコト
ニナルガ故ニ非常ニ強イ圧迫ヲ加ヘタノデア
「アイルランド」ノ農民ハアリ切レナイテ著名ナ者ノ

云フニハ一八八二年カラ一八八八年ノ間ニ直ツ
アナリカニ渡ツタ農民ハ凡ソ三百万人ト称サレ
テ居ル其処デ農民ハ少クナツタ農民ノ減少
ハ農産物ノ激減トナツテ現ハレテ居ルマラス
主義我ノ採ルニ足ラナイコトハ之ヲ見テモ明カテ
アル私ハ之以上ツマラスニ付テノ本格的批判
ヲ止メニシテ今日本農村ノ荒廢セル根本原則
ニ付テ有名ナ學者ガ恰モマラス主義我ニ依ラナケレ
バナラント説イテ居ル農民ハ殖へテ居ル之レデ
農民ガ困ルノハ當然ダト云ツテ居ル農村ヲ知
ラナイ人モ又サウ考へテ居ル今ノ吾々ノ農
村ハ勿イテモ——自分ノ依ツタ米ガ自分
デ食ヘナイト云フ状態ダ之モ農民ガヨメ
過ギルカラト云フコトハ噫之ハ具當テセウカ

之ヲ統計ニ見レバ日本ノ耕地關係デアル耕地面積
積ハ田畑合セテ凡ソ六百万町歩全面積ノ比率
ハ十五、八パーセント、云フコトニナツテ居ル或然非
常ニ狭イ此ニテ狭イ国ハナイ「スイス」ノ様ナ処デ
サヘニ割ニ三分モアル日本八年ニ千ニ三百万
石ヲ外國カラ輸入シテ居ルト云フ、状態デアル日本
ハ之以上ニ開拓ハ出来ナイカ耕地ヲ許サレナイ
原因ガアルノカト考ヘルト耕地面積ハ少イカ
山林面積ハ五一パーセントデアル毎具ニ素張ラ
シイモノデアル此ノ山林面積カラ傾斜十五度
ノ処ヲ以テ開拓スレバ三八〇万町歩出来傾斜
三十度ヲ以テスレバ六百万町歩ノ開拓ハ決シテ
不可能デハナイト思フ事毎具ニ付テ申シマスレバ
東海道信州等デアリマス殆ント山ノ天辺迄開

拓シテ居ルコトハ私モヨク兼知シテ居ルカ、常盤
線ニ乘ツテ行クト分ルガ此ノ間ハ裁判長殿等
ハ私共ノ愛郷塾生ヲ御檢分ニナラレタコトヲ兼知
シテ居リマスガ其ノ時ヨク御覧ニナラレタト察
セラレマスガ之ヨリ更ニ北海道ニ至ラバ開拓ノ
半柔ル山林ハ毎實際限ガナイ位デアル此ノ五口々ノ
前ニ横ハル問題ノミヲ以テモ「マ」ルサスレ「主
義」ト其ノ事、事實ハ全ク合ハナイ私ハ百姓「テ」スカ
ラ決シテ間違ヒハナイ日本ハ山岳國ナルガ故ニ
農村國トシテ最モ恵マレタル條件「ヲ」有シテ
居ル日本ノ山岳ハ合水山嶺トシテ横ハツテ居ルノ
「テ」アリマス滿洲ハ何ウ「テ」ス山「カ」アツテモ川「ガ」ナイ
日本ニハ山「カ」アツテ川「ノ」ナイ國ハアリマセン到ル処
ニ川「ガ」アリ水田ハ三百萬町歩アル「ヲ」見テモ

分ル川カアレバコソ水田ガアルニ十五町歩
水田ガアレバ五百万石ノ米ガトレル十萬ヤニ十五
町歩ノ水田ヲ五口々ガコシラヘ様ト思ヘバ未ダ
マダ幾ラデモアル茨城縣デモ一萬ヤニ萬町歩
ハ易クノ諾々デアルズルサスハ如何ニ執ルニ足ラナ
イカト云フト又現耕地カラ広ゲルコトガ出来ン
ト云フ見地カラ見テ全日本ノ水田デニ石ノ田デ
モニ石五斗ニスルコトハ又容易デアルト思フ之ヲ全
國ニスレバ九千萬石ト云フ米ガ又ツト出来テ来ル
「イタリ」ト「スペイン」ハ日本ヲ眞似テ水田ヲコシラ
テ居ルガ五口々ハ「イタリ」ニ等ニハ決シテ負ケルモノダ
ハナイ現耕地トシテモ米ガ出来又等ト云フハ葡萄
虫ノ様ナモノデトルニ足ラナイト思フ
此デ今度ハ何故夫レナラハ之以上耕地ヲ開拓スル

コトガ出来ズ輸入シナケレバナラヌカト云フト外ニ原
因ガアル早イ話ガ此ノ間才判長殿ノ御一行
ハ茨城縣ニ御出張ニナリ御覽ニナツタデセウガ
愛郷塾ノ近クニ山林ガアル夫レヲ持ツテ居ル人ハ所
ニ注ニテ居ルブルゲヨア、ジ―デ私ハ夫レヲ欲シイ
ノデスガ金ガナイノテ買ヘナイ今ノ耕地ノ賣買價
格ハ何ニナモノカト云フト水田ノ如キハ上田デ七百
円中田デ五百円下田デ三百円畑ハ上ハ五百
円中ハ二百三十円下ハ二百円デ何故斯様ニ
高イカト云フコトハ申上ル言葉ハナイガ若モ之ヲ
金ヲ借りテ買ツタトスレバ何ウナルカ吾々ハ金融ト
シテ過去ニ於テ最モ惠メレタノハ農工銀行カラ
年ハ分トシテ十五ヶ年間ノ消崩デアツタ八分デ
十五ヶ年賦デ借リルト一割一分ノ先消金ガ要ル千

円トズレバ年ニ三十三円負担税八十円合計四十三円
掛ハネバナラ又然ルニ米ハ一石十四円三石トシテ二十八円
デ何ウスルコトガ出来ル買ツタラ最後命一連モ落サナ
ケレバナラント云フガ如キハ斯様ナ状態デ御座ル
スカラ台湾米ヤ朝鮮ノ様ニ安クハ出来ナイ資本家
ハ台湾ノ米ヲ買ツテ来テ賣ルト儲カルシ又内地カラ
工業品ヲ賣ツテ儲ケルノデアル其処デ関税ヲ高
クシナケレバ幾ラデモ這入ツテ来ル然レ其ノ米ハ誰ガ食
フカプロレタリアノミジヤナイ第一ニ農村ノ五口々ガ台
湾米ガ欲シイノデアル斯ウ云フ譯デアルガ此ノ
関係ハ結局社会関係ニアルコトニナル社会関係ノ何
処ニアルカト云フト夫レハ此所ダト云フノガコマルクステ
アル食フニ職ナク五口々ヲ圧迫スルノハ資本家的生
産関係ニアルト云フノデアル

問 答

次ハマルクス主義ニ対スル批判ニ付テ

只今モ申上テ様ニマルクスハマルサスト違ヒ金貨窮
ノ根本原因ハ絶対的一般的資本家の直接ノ生
産デアルト説イテ居ルマルクスハ商品関係ニ於テ
商品ノ交換丈デハプラスマイナスデ何等利益ハ未
サナイ然モ資本家ハドンドン増大シテ居ル其ノ原因
ハ何処カト云ヘバ賣買ハ交換関係デナク資本
家ト労働者トガヤツテ居ル工場関係ノ生産関係
ニアルト云フノデアル彼ハ労働者ヲ安キ任員銀デ
買イ労働者ニ級スベキ剰價値ヲ資本家がセ
シメルナデアル夫レガ無限ノ蓄積ヲ爲サシメル根
本原因デアルト云ツテ居ル其ノ唯物史觀的ナ前
述ニ依テ資本家ハ資本蓄積ノ爲ニ生産手段
ヲ持テ居リ労働者ハ所謂プロレタリアデ自己ノ

勞働者ヲ資本家ニ賣リ辛ジテ生活ヲシテ行フト云フ
悲シイ。多量ニ在ル斯ウ云フ必然的結果ハ資本
家ハ極度ニ安ク勞働カヲ買ハントスル之ガ資本家の
生産關係デアル勞働カヲ安ク買ヒ原料ヲ買ヒ
其処デ勞働カヲ商品化スルト云フ勞働者ニ當
然ニ取サネバオラン余剩價値ヲ資本家ノ独占ニシ
テ蓄積シテ居ル其ノ蓄積シタ資本ヲ勞働者ニヤ
ラス機械ノ改善ヲ爲スガ故ニ夫レ丈勞働者ノ需
要ガ減少スル斯クノ如ク固定資本ニ取セラレバ夫
レ丈勞働者ガ要ラナクナルデアアル故ニ小サナ資本家
ハ大キナ資本家ノ爲ニ即チ潰サレ勞働者ガ殖へ
テ行ク所謂産業予備軍ガ發生スルコトニナル産
業予備軍ハ現在ノ勞働者ノ賃銀ヲ低下スルコ
トニナル斯様ニシテ益々資本ノ蓄積ニ拍車ヲ

スユトニナル之カマルタスノ失業者者發生ニ対スル理論
デアル彼ハ之ヲ絶対的一般的資本蓄積ノ法則ト
云ツテ居ルノデアル

之故ニ一般大衆ハ困ルノデアル大キナ企業形態ハ小サ
イ企業形態ヲ叩キ潰スモノデアル以前ハ水戸ノ傳車
場ニハ人力車がズット並ンテ居タモノデアルガ今ハ夫レガ
ナイ之ハ自動車ニ駆逐サレタノデアル織物業モ皆曰サ
ウデ私ノ親父モ打ツ倒レタノデアリマス其処ヲ問題
ハ私ノ本題ニ宣入ルノデアルガ現在ノ農村ノ生産関
係ガ社會關係ニヨリテ支配サレテ居ルカラ暫ク述ベ
テ見タイト鬼ヲノデアリマス此ノマルクスハマルサスト違ヒ
理路整然終始一貫シテ居ル大理想デアリマシテ到
底マルサスノ比デハナイノデアリマス乍併マルクスハ
英國ノ愛國労働党ノ崩レタ后ノ認識ヲ持ツテヤツ

テ雇ルガノ史的ナ事海員ニ付テ考査スルニ英國ニ
於ケル農村ノ荒蕪ノ根本ハ英國労働幼党ノ出頭シタ
コトヲ申セバ之ガ明カニナルト思フ少シク英國ノ農
村ノ具體的ナ説明ヲ仕様ト思フ英國農村ハ
流通經濟ニ卷込マレナイ先ハ共令体デアリ耕地ヲ
俱樂部員ニ抽籤デ之ヲ割當テクラブ員ハ之ニ必
要ナモノヲ仕付ケタノデアル又此ノ外ニ共有地ト云フ
モノガアツタ其処ハ共有的ニ薪ヤ肥料ヲ取り復ニナレバ
ゾトヤ、牛ヤ、鳥等ノ家畜ヲ共有地ニ放シタノデア
ラ其ノ共有地ノ存在ハ重要ナモノデアツタ人々復ハ
共有地ノ一部ヲ私有地化シ溝ヲ掘ルナリ植
デ小サキ農民ハ家畜ヲ飼フコトガ出来ナクナリ
所謂多業者ト爲リ都市労働者ト爲リテアル
ソウシテ日本ノ様ナ農民ガ拂々ト無クナツテ来タリ

が終ヒニハマルクスノ資本論ニモアルガ「スコットランド」ニ
於テハ八十一万エーカーノ土地ヲ一人デ所有スル様ニナ
ツタ之レヲ日本ニズルト三十二万町歩ヲ一人デ占メタ
ノ「デアル」委シイ説明ハ御遠慮シマスガ其ノ共有地
ヲ私有地ニスル時ニ「調印」ヲ取り議會ニ提出スルノ
「デアル」ガ「調印」ヲトル時ニハ「ビスケット」等ヲ「ヤツテ」神
サセタノ「デアル」夫レハ一万五千人ノモノヲ軍隊デ「過出
シ」五千エーカー「ラーエーカー」一「シリリング」デ賣ツタト言フ
コト「デアル」三十九人「デ」十三万頭ノ羊ヲ見守ラシタ
ノ「デアル」サウシテ農村ガ打ツ潰シタ「許」リ「デ」ナク「英
国」ガ他国カラ輸入シナケレバナラナク「今」ヤ「英国
ハ」農村ト云フモノハナイ「デ」アリマス故ニ「英国」ハ五分ノ
四ヲ輸入シナケレバナラナク「居」ル然レテ「日本」ハ何
ウ「カ」ト云フト「日本」ノ農村ハ資本家的生産関係

ハナイ大農ハ發達シテ居リ小農ハ甚ニテ居ルコト
云フトサウデハナイ。現ニ農業株式會社ナンテア
リマスカ營利的ニ行ハレテ居ルモノハ絶対ニナイ。米
國ノ白人ガ「アフリカ」ノ純眞ナル黒ン坊ヲ遣レテ行
ツラ奴隷便シタデハナイカ。毎員ニ白人ト云フ奴ハヒド
イ奴デスナ。貸銀労働者デハ農業業ナンカハ其系
ンモノデナイ。一本ノ草ヲ取ルニモ伎リニ貸銀労働
物者ヲ雇フトスレバ良イ加減ニ引キ物ツテ根ヲ残
シテ置直クカラ其ノ根カラ又何本モ芽ガ出テ来ルノ
デ却テ損ニナル故ニ日本デハ貸銀労働者ノ由來
夫ハナイ又日本ニハ大農等ト云フモノモナイ日本ノ農
村ニハマルクス主義ニヨル資本家的生産關係ハ絶
對ニナイノデアリマス。日本ノ農民ハ自分ノ勞力ヲ高買ル
ノデハナイ昔カラ大農ヨリ小農ノ方ガ裕福デアルマ

ルクスルハ都市ニハ住シタガ農村ハ全ク知ラナイノデ下ル
故ニ農村ニハマルクス等ト云フ事ハ絶対ニアリ得
ナイ絶対的一般的資本的畜積関係ハナイト言フ
コトヲ申上タイト存ジマス

之ガマズクル主義我ニ対スル批判デ御座イマス

裁判長ハ本日ハ之デ開廷シマス次回ハ来ル十月三日
午前九時ヨリ當法廷デ開キマスト宣シテ閉廷ス
時ニ午後三時五十三分
右及申(通)報候也

特高秘二第四六七二第

昭和八年十月三日

警視總監 藤沼 在



内務大臣 山本 達 雄 殿
右 廳 府 縣 長 官 殿

五、一五事件民間側公判状院之報云云

(第四報)

標記第四回公判ハ本日前九時十五分開廷午後三時三十
分閉廷也其ノ状状云云記ノ如ク有之

記

一日 十月三日 自午前九時十五分
至午後三時十五分
一場 亦 亦 報云云



一、後制指事 七人

一、股先人 七人

一、新渡人 (本日出席者)

栗原幸三助 遠藤繁三助 龜山要 池田 操

若松孝雄 星野 民雄 木下好吉 森田重次郎

奥山八郎 石川 河 全石一 本洋作 貞松

小松誠信 江橋 地 杉浦武雄 藤 哲 光

木村半之助 花井 忠 室下 巖 鈴木 多人

池田 謙吉 前川 登一 大井 民雄 津 成 内 太郎

福川 龍雄 梁 口 庄吉 若井 孝右衛門 松 木 廣 史

櫻村 五五郎 以上二十九名

一、傍聽人

1. 一般傍聽人 四九名

2. 特等 一八名

3. 家族

三〇名

一、延内、状候

1. 午前十時十分被若橋孝三郎以下十七名押送自動車三台二分乗市々五所初小(午前十時出發)ヨリ到着
2. 午前十時裁事長以下入廷着帝傍座人八合九時五分迄并獲人五合時刻ヨリ相前後ヨリ入廷着帝傍ス
3. 午前十時八分橋孝三郎以下各被告入廷着帝傍ス
4. 池松志士以下除ク外何レモ紋服着用出廷ス
4. 延之先立千名被告ニメテ並録筆ヲ平交スル事未回ニ合シ
5. 延之先立千名栗原寧之助龜山要兩并獲人ヨリ、長井省三、小林國龍、小地信吉其他數百名ヨリ、續名書ヲ送付シ来ルルヨリ以テ提出致シ度ノ尚今後ハ候ル可ク一應メニシテ提出可致者ヲ附言シテ一概提出ス

6. 年九の十五分再延報告橋孝三郎ハ本日、豫定ノ陣述ニ入
ルニ先立テテ四ノ公事ニ在テ云ヒ殘ニ居ル「マニヤス」ニ並
ニ「ル」スニ並、内二三ノ重要点ニ就テ申上テ「ト」テ在、
是陣述ノ後豫定ノ本論ニ入ル

久年五十四分再延報告橋孝三郎ハ十一時七分再開橋孝三郎ノ
訊問ヲ豫行

八正年一時休憩午後三時十分再開訊問ヲ報告橋孝三
郎ノ訊問ヲ豫行

九午三時三十分一時休憩合ニ時四十分再開訊問

10. 午五時三十分無事再延訊問ハ十月五日午九時再延ノ
豫定

- 一、報告橋孝三郎ニ就テノ事實整理（訊問）概要（第四日）
- 二、訊問ノ引續キテ訊問ノ交々力今日ハ農村崩壊ノ根本原因
- 三、村ノ組織ノ内ノ序説ノ点ニ就テ訊問ノ交々

(訳) ハイー、呂令ノ御訊官ニ對シテ申上ケルガニ私ハ家田ヲルサスニ家
及マルラスニ家ノ二三重要ノ点ヲ申シ残シタルヲ申上ケマス
幕初ニマルサスニ家ニ就テ申上ケル日本ノ耕地面積ハ五百五
十萬所歩ノ内五萬所歩以上ノ物多ク者ガ七萬人比率ハ一分ニ至
三毛歩ノ絶対多數ハ何レモ五所歩以下ヲ殊ニ一所歩以下
ガ七割ニ及ビンテ居ルノテアリマス此ノ小人多クノ小所歩ノ
家ニ對シテ並チニマルサスノ説成ラ加クルノハ眞ノ農業ナルニ
ノク知ラナイ者ノ言テ識者ノ誤認競以外ノ何(物?)ニテモ懸
イ念ニ就テ私ハ私見ヲ申上ケタイノテアリマス
日本ノ農業ノ自家ノ努力ノ許ス範圍内ニ於テ仕事ヲセ
ホハナラ又耕作セホハナラ又ノテアリマス而シテ其ノ決定權ハ
所謂農業部ヲアリマス五、六月ノ交當番農取リ田植等
ト延ハス事ノ出来ナイ仕事ノ輻輳スル時ヲアリマス是レシテ
自家一家ヲ爲シ遂ガ得ル範圍ヲ働カナイト農業部全體

が破壊サレル事ニナルノテアリマス尙餘ハ當爲ラサルノ二三
枚ノ他力アル農家が四枚ヲ掃リトスレバ一枚大ケケ不満足
ヲ来スノ事ナラズ四枚全部カ駄田ニナラテ終フノテアリマス、
或ノ意味ニ於テ農家ノ耕作面積ナルモノハ必然的ニ制
限サレルモノデアリテ或ノ説ハ何モマルサヌ主義ノ説ヲシムル結
果ヲ何ヲモ無イノテアリマス

次ニマルクス主義家ニ就テ申上ゲマスガ目下ノ状態ハ尙餘
ハ英國テ申上ゲマス在綿業ノ著シイ衰退ノ結果
英國ノ農村ハ疲弊シタリテアルトエingle等ハ申シテ
居リスガ是レハ即チナルヲ遠テアリマス
尙餘ハ印及ノキヤラユカ隣ニ英國ヲ輸入サレタレガ
飛布ニ勸進サレタリユテ今及ハ英國自身ヲ直接
製造シ様トナラ事ニナラテラシカレタ地方ニ於テハ利
ル交ニ紡績業が興ワタリテアリマス夫レ近ハ農家ノ

大キナ剥業ト一ツタツタ棉業ハワトノエニチンノ夢似ト
お條ツ子益マ工業化サレテリツツモテアリマス

英國ノ農村ノ現状ハ全クエルクス主家以外ノ原因ニ依
リテ来タテトツテ英國ノ独立破業者二十万ノ半數ハ工
業業ニ依ツテ生ハレテ来タテアリマス生業者辭

疎出スルノハマルリス言家納ノ法別ニ此至固スルモノテハ無ク
テ夫レハ系氣循還説ニ至クモノト云フベキモノテアリマス
次ニ怪物史叙的并償法ニ就テ申上テマス此ノ内ニ其業
カヲ機械工業ニ推移シテ来タト云フ同ニ後者ト云フ後志
カ等ソウ信ジテ居ル様テスカソウテハ無イハテス現ニ今カ
界中ノ農民ノ生活ノ約トツテ居ル下株ニ於テサハ所
謂大農植ニ於ルモノテハ無クシテ農民ハ所謂自給自足主
義ニ於ツテ居ルノテアリマス

心ニ其國云ヒ幾レゾト云ケテ申上ケマス

右ニテ補遺陳述ヲ終リ本日ノ豫定ノ陳述ニ入ル

次ニ古今ノ農村崩壊ノ根本原因ニ就テ申上ケマスガ私
ハマンサスニ主家ヤマルクスニ主家物理論カヲ見ルハ金クおろ
オクナソテ終フカヲ以テ事ヲ最初ニ注意シテ理論ノ變ハ
レル事無シレニ子供ノ様ニ益心坦懐幼思ノ様ニ氣打テ事
ニ際ニテソリクネバト又ト思フノテアリマス私モ此ノ心算
テ農村ノ解剖ヲシテ見タイト思フモノテアリマス私ハ
人ト物トガ農村ヲ土台トシテトシテ同ニ動イテリキツハ
アルカト云フ急ニ就イテ求心約志心約ニ親テ来タルテコリ
マス

(オ) 夫レテハ今ノ人ノ動キ方ニ就テハ

初人ハトウ云フ同ニ動イテ居ルカト申シマスレハ一言ノ説ハ
モ必要ナクテアリマス人ト云フ人凡テガ只都會ニ都會
トト就申大東京或ハ大阪トトシテノ物凄ク集中サ

レワ、アル事ハ一言ノ説ハ又あこナイ現亥テアリマスツリ
優シク賃ノ者ハ全部都會へ集中スル人物ト云フ人物ハ
全ク農村ヲ離レテ都會へ集中サレ農村ニ所留サレシ者ハ
所謂後進者——銭能覚サレテハ所謂總領ノ志ハ
カ乃迄ハ出ル能ク、無ク者許リテアリテ久偽倒心大帝
都會出張所ト云フマニ百二十萬年ノ所ノ縣ノ中役人
又農村人テハ無クテ車卒ノ人テアリトス、縣人等皆カ、福公ト
虽モ決シテ農民テハ——マニ極盛サントカ地主ノ息子サ
ニ許リテ一カヲ十迄都會ノ風ヲ賣ルル都會人テアリマ
ス、夫レトエロカ農民自身ガソノ十氣持タカク、亥ニ驚キ又
ツク次第テス、現ニ私ノ処ニ來タ、亥ニ車達ニワヘ流車ナシ
カニ乗レト荒クレタ、手ニ油テ隠ツウトスル様ナ風ガアルテ
アリタス、歎クトモ私ノ処ニ來ル、亥ニ車ハ村テモ優秀ナ模範
者、手ニ屬スル方テスガ夫レテ高止、我トテスカ、他ニ一段

ニ推して出ルべしアリスス婦人ニ布衣なりテス我々ト村
ヲ出ケハ都令へ女中ヲ志願してリクテスオ錫テスヨー、
其ノオ錫ガ其サンノ妻似ケスルノテス其サニハ其サニテ其
婦人ノ妻似ケスル者婦人ハ役志ノ妻似ケスルノテ其ニ推ナ
リテ涙ガ出ルノテス尤モ其レガ人者ノ本性カモ判リテシカ
皆然リテアリスス

懐ニ至ノ千解モ出来レハ其ノニ 都令ニ其出シテ終ノノテス
私ノ近ノテ高等学校ガ出来んニ、礼ナテ其地ヲ去リテ其
極ツテ連中ノアリマシム、其連中ノ或ル者ハ海陸ヲ極メル或
者ハ下ニナイ材木極ク極メル其ノハハ一室ヲ其業シテ
者モアツシカ懐ナキ事ハ其家ノ其法テ元モ子モ其クシテ
終ツテスワテニテニオワツテ其出ワテ居ルノテス其額ニ汗
シテ御カウトスル農民ハ其ノテス其ノ涙ガ流シマス今
ヤ我日本ニハオントノ農民ハ居ナイノテアリスス其ノ其ノ放

任じり置い夕日二人合衆民が皆部令へ都令へト出たりしテ
終つて決り居りてス

(才) 此ノ物ノ動キ方ニ就テノ説法ヲ考キ及イ、

(設) 今私人人ノ動キ方ニ就テ申上レ分メシタカ今及ハ物ノ動キ方
ニ就テ申上レテス

私ハ茲ニ四ツノ代表物ヲ持ツテ来マシタ今其ノ内ノ一
ノ至肥ニ就テ申上レテト他者ノ廉カツタ昭和五才ニ
ケル使用額ガ五億五千萬噸、煤氣時代ハ四億噸カ
三四億五千萬噸、兎ニ角ニ億噸毎々下ラヌ至肥ヲ使用
シテ居ルノテアリテス而シテ此ノ肥料每人ハ全國ニ四萬五
千人カヨリキ扱ワテ居ラヌ至肥肥料每人ハ大部令ニ依リ
根拠カアツテ今及カ多取捨サレシテアリテス豆粉硫酸
アソニモヤ強ニト五井一五萬乃至八萬ノ財國系ノ年ニヨリ
テ輸入サレタリ製造サレタリレテ居ルノテアリテス

粟が豊多肥料ノ中ニハ時ニ候テ柔ケマスルト。限理造候ノ邊
ノ豊黒ノ土カ肥料ニテテ居テハ或ハ流變ノ中ニ培カ致キ
込マシテアツキリスル事カアリスルカ農民ノ是レケ極喜スル事
元出来ナリ状態ニ思カシテ居ルノテアリスルケ余リ農民ノ喜カ
サハ才法ニナリタセシ尤元農令トカ裁務場トカ産業組合
等ハアツキモトウスル事元出来ナリ極テアリスルケ大レニ肥
料商人ノ在候テハ何時ニモ酒ノ息ヒラサセテ居テ一俵カラ一俵
元儲カルト云ハレル完全肥料トニカテ喜カ附ケラレルト云フ風
ナ状態テ財閥等ノ懐ハ新トト肥ケル一方カシ農民ノ懐ハ
老々瘦セ衰ヘサレテトナリテアリスル而シテ肥料商人ハ農民ノ
一割ニ分カラ一割五分位ノ割合ヲ出来秋ツ眼出テニ倍スルノテアリ
マシテ出来秋ツトシハ肥料商人ノ在候ニ於テ肥料商人ハ喜カ好
利アリ農民ハ喜カ不利カ条件ト下ニ取引カ為サレルノテ
アリスル

(戊) 次ハ農村ノ儲蓄係ノ就イテハ

農村ノ儲蓄係ノ就テ申シケマスニハ實ニ懸懐ナモノテアリス

一 一ツ到致ハ儲蓄ナル數字ヲ柔クハ出来マセンガ却テ抑セシハ

一 二年ノ推算ニ依リマスト四十億圓毎ト稱セラレテ居リス

一 加私ノおツテ居ル一萬圓ノ蓄積ニ研究家テ農工銀リノ油

一 課ニ居ル人ノ推算ニ依ルハ昭和四年ノ如ク五十億

一 圓トモイフ云コレヲ居ルノテアリス

一 後博覧會ハ又懸郡ノ外ハ刺村テオモ月ノ富諸リノ際ニ

一 無記名ノ各自家ノ儲蓄額ヲ記入セシムルカ女レニ因

一 ルト一和堂リノ負債額ガ凡ソ八五萬平均ニテ居ルヲ見ル

一 テシカモ女レニハ村債ハ加ハツテ居テイト云フノテスカラ

一 ツ加フレハ必スヤ一和堂ノ算以上ニナルヲウツト思ハレ

一 是ハ學ニ一ツニボ村ノミテハアリスヤニ信濟辺テハモツト

一 トノおツテアリスス而シテ之ノ金利ハ何レモ一割位ノ利息

一 有

リテ暮リマシテ、此ノ内、テ農工銀リカテハ八分利、テ十五ヶ年地
テ借リテ暮ル者ガ無ク優良ナル条件ト云ハレテ暮ルノテアリ
マズ是レテ年割ニシテ一割一分宛返済スルト致シマスト合圖テ
五億五千萬金トナルノテアリマス而シテ銀有ナルモノハ何レ七三
井五菱若クハ安田系等ノ大財閥至融機界、カラ借リテ暮ル
ノテアリマシテ農工銀リ如キニ相テ甘ハ人々本来ノ住居
ハ完全ニ没却サシテ終ワテ権取機界以外ノ何モノテモ無ク
様ニナシテ暮ルノテアリマス外、在土捕何レノ地ニ於テ大建築
物ト云ハハ皆銀リテアリマシテ外、在農工銀リハ三十五
萬金ノ巨費ヲ投ジテ新築サレシメシカモ、此ノ三十五萬金ト
云フ大金ハ我々農民カラ搾リ取ツタ原ノ日歩回里ノ利子ノ集
積金ニ依ツテ建テラレト云ハレテ暮ルノテアリマス

(イ) 此ハ中作料ノ点カラ説明シテ見ユ

(ロ) 小作料集積金ガドウテアルカニ、孰イテ一言申上ゲタイノテスカ

目下ノ状態ニハ混沌トシテ判断致しセシテ私ハ昭和三年
頃ノ至極トシテ申シ上ゲマス

日本ハ如何ノ總面積カ五千萬畝所歩細ガ二千万五萬所
歩小作料カ如何一反歩ニ付一石宛細ハ一反歩平均十八・九
石見立テアリス今是レシテ金額ニ見積リマスルト如何
ノ小作料カ一千七百萬石一石ニ十畝ニ見積リマスルト是
レガ五億一千萬畝ハ十九年トシテ見シテ五千万五萬所
歩ニスカラ一私ハ額カ疲テ暗算ハ一十出集セシカ恐ク

ノ二億五千万五萬ニハナルト思ヒマス方合セテ七億五
萬以上ノ額カ小作料トシテ支拂ハシテ居ルノテアリス

出羽ノ本吾縣ハ勿論吾性ニハアリマスシカ農民ニ包シ貸シテ
居リス元元ヨリ此ノ貸サタイテセウガ秋博報テ最良ノ地
主ハ一年七千俵カラノ小作米ヲ取リマス之東地ニテテ
人ハ大根高利貸シノ事トナリテ前貸報報到テハ

息子の東京へ通ひて出掛ケル為に態とオードバインのハツニ
夫レに乗リテ出掛ケル途中心小竹養老が夫レの是テ地五
権ノ息子様外仰換得セ不ハナラヌ又ト驚イテ換得スル頃
六息子様ハ遙カ彼方ニ見ヘナクナルト云フ始末テス折リシ
テ彼等ハ赤坂遙リニ遊ビエリクハ有テヒナク其
一遊蕩費が一ヶ年七萬餘好氣ノ時ニハ十萬餘ト云ハレテ
居ルテアリキス此テ其ノ一端ヲ伺フニ是ルト云フマキテアリ
ス

次に農民ノ負担ニ就テ

被服ニ至テは項目ノ一ツナル負担ニ就テ申上ケマス
昭和五四年前迄ハ四億四、五千萬年テアリマシクガ扱テ是
レカト二十ノ風ニ農民本意ニシテ割リ當ラレテ居ルカト申
レマスト被服分等テハ出資公始メ内務部長テモ何テ
モ競ワテ土本事業ヲ起シタカルモノテアリキシテ申シマシ

ケタ新編千ヤーミンクナタイポテス是レシテ生徒達シキヤ
ハスルノテス其ノ意ヲシイ愉リテハアリマシヤ
夫レニ又女教員ハトウカト申シマスト本居長教ノ作カシカ
ノ「書イオ同国ノオ人扱ー」レシナカクテ歌ヲ教ヘテ子供
皆勇ツタ女生徒達がシナク作ワテ踊ワテ喜ルガスマシク見ルト
全ク懐カ出ルノテアリマス悲レシテイノカ笑ワテイノカ
判リマシク慢遊ナラ慢遊テ笑ワテモ居ラシルガ亦新之儀一上モ
無イ農村小学校ノ教員ガコンナ風テハ一体ドウナルト云フ
ノテセウカー、女教員ノスタイルナク大妻ナモノテ父見込ハ眼
ヲ丸クシテ見テ居ルノテアリマス
コンナ教員ノ仕方ハ連モホントノ教員ナカ出来様無ク無
イノテズ夫レテ各テ勞働者ヤ傭生活者ニ比シ能者ト云イ
員扱ヲ刺刺テラレルトハ餘リニ元氣性ヲ踏ミ附ケタヤリナテ
アリマス

たう此一の体勢（年々十時四十分）再同年々十時七分

（内令家ハ市場昇降之就テ訊不交イ）

（初）市場昇降之就テハ少シ許リ申シ上ケ交イト思ヒマス

第一米カトシテ概ナ保降ニ就テ取引サレテ居ルカ農民ハ

米カ首テ自己ノ採算ニ望ク主張ニ因ツテ取引サレタ事ハ

四月毎イノテアリスル如何程生産費が掛ツトシテモ女レシ

空海ノシクモノカ正ナル價格トシテ決定サレハ又ノ

テアリスル交が所謂出来秋先十月十一月ノ頃ハ何時テモ

米カ飛帯ノ廉イ時テアルニモ子拘農民ハ去年減シノ備

ノ為メ之或ハ税金ニ或ハ借入ノ返済ノ為メト等々ノ多ク

用カ重ナワラ来ルノテ取引サレシ米カ賣ラ不ハナラ又極

態ニ置カレテ居ルノテアリスル不來事ノ亦他近指紙

トハ到底出来ナイ古語テアリスルソコテ与飛ナク農民

ハ米ヲ二重表帳ニシテ一俵數トモ五十錢以上掛ケ

ハ米ヲ二重表帳ニシテ一俵數トモ五十錢以上掛ケ

し力毛鹿ヤヲ樹ケテ、此ノ上半穀性ノ規言ニ拠リテ植草ヲ
交ケテ廉ク賣却シテ終フノテアリマス
交ガ又凶ノ植草ガ伸々六ヶ敷イッテ農家ノ多クハ穀トシ
テ生馬ノ眼ヲ抜ク様ナ仲買人ノ手ニ返シテ終フテアリマス
又農民ヲ養フ為メニ物アハ年三千五百餘ク負担シテ表
ル程テアリマス

是ヲ下株式ノ栽培ニ拠リマスレハ皆半ニ型ノ附イノテアリ
マス今ノ物販ノ俵アハ一切令切掃算ヲ及外視シテ他
新テ始末ヲ附ケ取引セハナラヌ又様ナ状態ニ在ルノテアリ
マス一方買方ノ品物ハトウカト申シマスルトニ五月頃
ノ米ノお場ノ目印ル頃ニ在レハ頂交肥料お馬ノ目印ル
頃アスガ肥料販ノ為ニ肥料買入レノ契約ヲセハナラヌ
テアリマシテ斯クシテ農民ハ否礼ナシニヤキヤンニナラ
サルヲ得ナイ様ニナラズ居ルノテアリマス

ノ声デス、是ニ依ツテ今迄ノ農村青年ノ純情ハ破
壊サレ火ニシテハ國防迄モ破壊サレルニ到リタノデ
アリマス。

(中) 次ハ其結論ニ就イテ

此今迄申シ上ゲテ来タ解剖ニ因ツテ明カニスル事
ガ出来タト思ヒマスガ農村疲弊ノ原因ハ是ノ
瓜先カラ颯ノテツペン迄社會的干係ニヨツテ起サ
レテ来タモノデアリマシテ決シテマルクス主義等ノ
然ラシムル処デハナイノデアリマス。人ト物トノ一切
ガ中央ヘノ、大都市ヘノト集中サレル見ガ
新謂資本主義社會ノ特室デアリマスガ今一ツ
ハ百姓ガ憂鬱道精神等ハマルデ氣違ヒカ何カ
ノ言フ事ノ柄ニ考ヘテ居テ甚シイノニナルト
私ガ代議士ニ出ル考ハカカラアンナ事ヲ言ツテ居ル

ハ社長モ既ニ病リマセン、枕木一率ニ至ル迄ノ非常ナ
高價デ買ハレテ居リマス、其外未ダ色々ト知リテハ居
リマスガ神聖ナル此法廷ヲ巧ス事ヲ畏レマスカラ是
以上ハ申シ上ゲマセン、次ニ村ノ徳望家が後任トシテ
社長ノ席ニ陞リタ時ハ只尻拭ヒヲ甘セラレタ丈デ
アツテ其爲ニ息子ハ無産主義ニ走ツテ終ツタク
或ヒハ吾々ト公物ト悲運ニ陥ツテ居ルカモ判ラヌト
思ハレル物ナリ悲慘事ガアリマス、沿道ノ株主ハ最
初ハ死者、ニ長シク今デハ株主ノ掛込ミニ田地
迄賣ラネバナラヌ又物ナ状態ニ陥ツテ居ルノデアリ
マス、最初ハ花火ヲ打揚ゲタリ停車場ノ争奪戦
ヲマツタリシテ騒イダモノデアリマスガ其停車場
ノ近クニ第一番ニ出来タノハ白首ダツタノデアリ
マス、而シテ第一ニ肉へ出シタノハ青年達ノ遊興

元が日本ノ為メ謀ニ悉クサルヲ得ナイノテアリマス
夫レハ一軍中カワレ切ワテ悉ク謀ニ牛楯森モ無
ク農民ガ如ク斬クヤンスラ授ヘテ飲ニ喰ヒスルノハ謂
ハバ徳川時代ノ遺風ヲ人ヨリ奉性カトモ思フノテ
アリマス

今一ツハ蕪城鐵道ト云フ資本金ニ至五十萬圓程
ノ局社ヲアリマスガ社長ハ皆テ本州民ノ今下ニ在
リテ政友會員テアリマシテ反キテスル者ニ依リマスレバ
夫レハ政府ニ對テ附ケテ金儲ケシヨウトシタトカノ
風説ヲアリラシム

二至五十萬圓ノ株主ハ何レモ皆若シ筋ノ地主階級ニテ
シタガ之ニ必要スルノ要ハ強クイタモノテスカラ利差ハ
柔ラズ現在ニテ (以下次條)

尚更ら二二三ノ重きツク項目ニ就イテ申ニケマスレバ悉ク
大ナルモノハ冠婚葬祭等、シキ分ケスニハ居ラヌノテアリ
マス強ニトモ家ハ生ノ為メニ稼イテ居ルト云フテモ過
言ニ人毎カラウト思ハル程デス

茲塔式ヲ奉ケントシテモ村中集ツテ来テ飲ミ喰ヒヒラスルノテ
不奉旨歎ニ就テハ後藤が私ヨリモ詳シイカラテ後藤カラ申就
ハスル方ガヨカラウトモ思ヒマスが實ハ後藤ニ拜俸シテ留歎
テシテ生ノ文ガ之ヲツクハ私抱行ツテ見スレシラテ後ヲ考
テ一同ノ志ガ飲ミ喰ヒヒスル子供達ガ十二三名集ツ
テ来テ台所ノ方テ出来ルモノヲ片ツク端カラムシヤノ
喰フテ居ル宛然タル紙飢冷ニテアリマス

葬式ニシテ尚且ツ喰ヒテス他ニ推シテ喰ルベシテア
リマス何ノ子拘正宗一本ハ附キ物デスカ併シ親ハ是
シモ并一面カラ考ヘレバ淋々止ムヲ得ナイ次第トモ云フ

子供ナンカウツカリマラレナイ等ト云ツテ全ク一顧少
ニスル者ノ無カウタノハ之即チ西洋唯物文明ノ然
ラシムル処デアリマス。所謂近世唯物文明ノ批エ性
及び破産性ノニツニ在ルト信ズルモノデアリマス。此ノニ
ツニ對スル私ノ實地的觀察ニ就イテ一言申上ゲマス
ト西洋物質文明ノ救揚ハルネツサレスノ宗教大改
革ニ起因スルモノデアリマシテ最初融通至濟組織カラ
資本主義を情組織へト進ニダモノデアリマス、而シテ
西班牙ハ一經ヨーロッパニ於ケル覇者トナツタノデアリ
マスが其後ニ起ツタノが、和蘭デアリマス、和蘭ハ西班
牙ノ稱ニ捺奪リ初ハ標ラズ專ラ貿易ニヨツテ
着々ト成功シテ世界ノ海上ニ雄飛致ラマシタ
次ガ英王デエリサベス女皇ノ殖産工業ノ進展ニ
ヨリ今日ノ基礎ヲ築イタノデアリマス、斯クテ英

國ハ益々殖産工業ヲ發展セシメ運河ヲ開通
セシメ以テ殖民政策ニ乗出シタガ彼等ガ印
度支那等ニ延バシテ手ハ實ニ素曉シイモノデア
リマス、昔好歐洲ノ天地ヲ風靡シテ居タ処ノ佛
蘭西ノナポレオンモ遂ニ敵キ潰サレテ終ツタ程
デアリマス、ナポレオンハ世界一ノ武將デアリマシタ
ガ悲シイ哉金カラ持タナカツタ爲ニ潰サレタノ
デアリマシタ、斯クシテ英西ハ素曉ラシイ石炭鐵
ノ掘鑿ヤラ植林、鐵道、航海ト完全ニ世界金
融ノ中心トナリ、五條トナツタノデアリマス、恰又
曾テ西洋文明ノ中心トナツタ希臘ノソレト金
ク同一トナツタモノデアリマス、
如斯クニシテ貿易ノ原則タル豫キニ買ツテ高
キヲ賣ルノ主義ノ下ニ今ヤ至性ナシカ必要ハ十

イト云フ極ノ結果カ遂ニ農村ヲシテ完全ニ破壊
セシメテ終ツタノデアリマス

是ガ私ノ農村崩解ノ根本原因ニ対スル解
ヲアリマス

以上ニテ一時休憩(云々)再開午後一時の八分

午後九時ニ引續イテ今度ハ失業ト農村問題ノ内

ノ序説ニ就イテ記ネタイ

(比)曾テ井上大藏大臣ガ我々が来イ固ノ至願ニヨ

ツテ考フルノデアルガ其利ヲ喫テグル目的ノ爲

ニハ手数を撰バ又或場合ニハ國家ト虽モ賣入

ツテ終フニ至ルモノデアリト云ハレタ事ヲ記憶致

シテ飛リマスカ近世西洋唯物文於カ如何ナルモ

ノデアルカハ過去ノ若干ノ時機ニ於テ或ヒハ許

サレテ居タカモ判ラヌガ最早是以上續クカトウ

カハ私ハ尙賤デハナカラウカト思ツテ居ルノデアリマス
日本ハ是迄一カラ十迄英函ヲ真似テ来テ自ラ
東洋ノ英字等ト去フ様ナ者サヘアリ
某代議士ノ如キハ息子ヲ徳々英函ニヤツテ在界ノ
博識ノ中心デ磨キラカケサセテ来テ東洋ノ至情
ヲ牛耳ラセ様トシテ居ルノデアリマス。私ハ是等ハ
日本人デハナイト存ヘルモノデアリマス。日本ハ今迄
徹底的ニ英函梳ヲ以テ最上ナルモノトシテ来タノ
デアリマス。此社會的状態ニ於テ先ヅ第一ニ七
ビルモノハ農村デアリマス。破壊サレルモノハ思想デ
アリマス。婦人ノ髪ニシテ處デヤニシトカ東髪トカオ
ールバツクカラ逐ニハリ方不明ニナエナルノテ有リマス。
土百怪ト云フ言義ハ實ニ怨ミイ響目キタ
今一ツハ徳川時代、昔ニハ義長ハ公方様ヲ見シハ眼

潰レルト扱ヘラシ、又ソウ信ニテ居タマノデアリマス
か今日ニ尚少シニ、**眼醒**メテハ居ナイ格ニ思ハレル
ノデアリマス。

ノ私ハニ裁ヤ其他ノ大デパートニ例ペンク、幕が
生ハテモ、商家が潰レル格ノ心配ハナイガ五百万
十萬ノ農家ノ尾根ニ雨が漏ル格ニナツタトシ
タラ、商家ハ將ニ潰レルト思フモノデアリマス、農村
ヲ此僂ニ打テステ、オケルカドウカ私ハドウシテモ
控テ、ハオケ、又大問題ダト思フノデアリマス。

此以ハ人口問題ト食料問題ニ就イテ訊ネタイ
此茲ニ於テ私ハ人口食料問題ガ如何ナルモノデア
カト云フ事ハ少しモ説明ヲ必要トシナイト思
ヒマスガ現代日本ガ如何ナル状態ニ在ルカヲ簡
單ニ申シ上げマス。

曰奉ハ山岳ニ富田ニテ居ル事ハ亦ニモ申シ上ゲタ
極デスガ未ダ〜耕田可能ノ面積ハ全面積ノ三
割位ハアルト推測デキルノデアリマス、農おノ現在
人口ハ三千万人デアリマスガ耕地ガ倍加サルレバ算
術的ニ考ヘテ見テモ人口モ亦倍加サセ得ル可
能性カナル説アリマス、ツミリ一億万人以上ノ総人口
ヲ抱擁スルコトガ出来ルト信シテ居ルノデアリマス、伊
太利ノムツソリニ〜爲シタ仕事ノ内デ一番ノ大
仕事ハ内地ノ植林事業デハナカツタカ、伊太利
デスラ然リデス、曰奉ニ於テヲマデハナイカ
曰奉ハ今ノ人口問題ニ對シテ充分答ヘ得ル可能
性ヲ持ツテ居ルト断セザルヲ得ナイノデアリマス
然レバ私ノ今ノ議論ハマル升ノ主義ニ眺メテ
議論ニ過ギマセンガ更ニ是ヲ技術的ニ眺ムレバ

モットく、世界一ノ穀收率ヲ有シテ居ルノデアリマ
ス、現在ニ石ノ穀收率ヲニ石五斗ニ爲ス事ハ、各
易デアリ更ニソレヲ三石ニスル事モ藉スニ適當ナ
ル才性サヘ持ツテスレバ出来得ルノデアリマス、尚平
地ヲ利用シテ富産ヲ奨励シテ、畑カラハ馬鈴
薯ノ增收ヲ因ツタリスレバ未ダ一日奉ハ人口ヤ
食料問題デ行キ詰リテ居ントハ申シ得ナイノデ
アリマス、尤モ遠キ将来迄モ然リトハ申セマセン
我々ハ日奉ノ此偉大ナル畧情ヲ打テ捺テ、英函坑
ヲ採ワタトセムカ實ニ私ハ恐ルベキ結果ヲ招来スル
ニ至ルデアラウト信ジテ居リマス、在界大戦デ英函坑
一番困ツタノハ食料問題カツタノデアリマス、独逸ノ
潜水艇ノ襲撃ニハ全ク色ヲ失ツタモノデス、在界
一ノ海軍力ヲ有スル英函ニシテ尚然リデス、況ンヤ

日本ニ於テマデアリマス、
以上デ大體の概略申上ゲタ心算デアリマス、
（次ニ失業問題ト農おニ就イテ）

ヒリレカラ今少シ申上ゲ度イコトハ失業者ヲシテ
滿洲の困窮ニ從事セリルト云フ問題デアリマス
が私ハ是ニハ絶対反対デスト云ツテ私ハ依リモ滿洲の
問題滿洲の利益ヲ等閑ニ附シ極ト云フモノデハアリマ
セン、日本ノ農民ハ現ニ腰が抜ケテ居ルノデアリ
マス先少以テ此腰カラ入レテカ、ラネバナラヌノデア
既ニ滿洲ハ新ノ謂王道主義ノ看做ヲ掲ゲテ居ル
ノデス、以テ失業問題ト農おニ就イテは答へ申上
ゲマスト十八、九世紀ノ末ニ於テ行ハレタ英画ノ
農お崩解ハ産業革命ノ結果カト思ヒマス、
人口ノ都市集中ハ産業革命以後カト考ヘラ

レテ居ル所ノデスが見ハ金クノ反対デス、ソレハマルクス
エトゲルス等ノ主張ヲ受ケ入レテ居ル処ノ共産主義
者達ノ見方ナリマス、英函ノ農おハ既ニ産業
革命ノ以テエリガベス女皇時代ニ於テスラ失業状
態ニ陥ツテ居タリマス、其処ニモツテ来テ新
謂産業革命ノ結果喬爾ヲ打ツテトシテ人
口ノ都會集中トナワタモノデス、失業問題ノ根
本ハ農村ノ荒廢ニ在ルデマス、世界各處ニ
於ケル失業問題デ何ガ一番重大ト原因ニナツテ居
ルカト云ヘバ農村ヲ徹底的ニ荒廢セシメテ居
留ンテ居ルノデアリマス、米函ノ失業率今又ニ中
萬ト稱セラレテ居リマスが本問題ハ金ノ有無ノミ
以テハ論セラレナイノデアリマス、友人ノ林ナニカ佛
蘭西ノ農村ニ入ルト今尚昔々ラニ氣持テカ涼

ツテ飛ルノデ巴里ニハ任マナク共由農村ニハ任シテ見タ
イ等保トテトモアリマス、
然ラバ農村失業問題ノ解決ハドウスレバヨイカ
？ト云ク事デスカソレハ「土地ヲ農民ニ還セシ
ト謂フ事」ヨリ外ニハナイノデアリマス。
（次ニ国民社會を再建問題ニ就イテ）

其ノ云ニ重要ナル大問題ハ國民社會経済再建
 向題デアリマス、在り大戦後ノ各國ガ峯ゲテ國
 民経済ノ再建ニ努カレツアル事ハ申ス迄モナク事デア
 アリマス

戦後ノ各國ハ須ラウ自給自足デナクシバナラヌ不
 慮ナレニソウナラザルヲ得ナクト云フ事ニソフテ居ルノデ
 アリマス 先ズ第一カ英國デ南税ヲ引ヒテ以テ英
 帝國ブロウク主義ヲ採ツテ居ルノデアリマスカ各國
 皆然リテ又國家改造経済向題凡ソル方面カラス
 テ農村ヲ土台ニシテ再建ヲ講ガネハ之モ子モ無クシテ
 終フモノダト私ハ確信致シテ居ルニテ是
 過般ノ査見リ経済會議ニ於テ米國ガ英國ノ提案
 ヲ一蹴シタト云フノモ當分ノ話デス 強カナ米國評リヲ
 讀ムル譯ニ入行キマセン我々トシテモ大クニ考ヘネバナラヌ

尙懸テアリマス

輸出入ニ対セル生産棉業等ニ就テモ何れ迄モ今日ノ如キ状態ヲ期待スル事ハ出来ナク、状態ニ在ルテハアリマセンカ、第、因トモ、那ハ、結托セル、暢カアリマス

生産業之國棉業之國等ト申シマスガ、深甚ナル考慮ヲ拵ハナイト、因ヲ設ルモ甚ラウ、結果ヲ来ス事ニテ、ルノテ、輸入ノ業一カ、芝、棉、羊毛、等々、色々トアリ、之ニ付シ、共、假例バ、オーストラリアト、島、最初カラ、羊毛ガ、決シテ、野放シテ、居、タノ、テ、ハ、アリ、マセン、ヨ、

今日ノ、盛大ヲ、到、マ、ニ、ハ、實ニ、三、千、年、ノ、長、ク、尙ニ、巨、ク、テ、改、良ニ、改、良シ、テ、今日、一、億、八、千、万、圓、ノ、輸、出、ラ、良、ル、様ニ、ナ、ツ、タ、ノ、テ、アリ、マス、日本ニ、於、テ、モ、今日、其、地、産、木、等、器、下、ノ、爲、農、家ニ、依、テ、飼、育、サ、シ、ツ、ル、ノ、デ、ス、ガ、是、シ、テ、五日、又、サ、シ、バ、將、来、輸、入、ヲ、絶、シ、事、ガ、出、来、ル、名、目、デ、ス

私ハ所差農村ヲ無視シテ再建ハ不可能也ト信ジテ
居ル者デアリマス 以上デ大体ノ説明カ出来タ様ニ思
ヒマス

右ヲ以テ一時休總(午後二時三十分)再開(午後二時四十分)
次ハ国防ト農村ニ就イテ

(七) 一才其ノ前経済問題ノ内ノ米ノ向題ニ就イテ一言ニ
ゲタイト思ヒマス

日本ノ國民經濟ニ對シテ米ガ如何ナル重要性ヲ持ツ
テ居ルカニ就テハ他ノ如何ナル商品ト異ニ敵ズルモノハ
アリマセン加之日本ノ現状ニ於テ何カ一番重要カト申し
マズレバ先ヅ米一ニ糸デアル事モ今更喋々ヲ要セナイ
処デアリマス 今後在野リ各國ノ貿易ハ益々進歩ノ差違
シテ行クコトハ勿論デスガ私ハ常々若クシテ生活費ノ低下ト
あつコトヲ考へネバナラヌト思ヒマス 而シテ其ノ生活費ノ

五〇%ヲ占ムルモノハ食料品デアリ更其ノ主要部分ハ
糸デアリユスカラ糸ハ未得ル限り廉ク提供サレル様ニ
セネバナラヌト考クテ居ル也茅デアリマス

次ニ国防ト申シマス日本ノ死活ノ大向題デアツテ其ノ重
大性ニ判リマシテハ世ノ護ラシタル商工資本主義者ニシテ
モ諒コラザル事實ダロウト信ジマス 實際農村ガ此ノマ
デモソト疲弊スルト知シマシラドウナルデセウカ 農民ハ
今ヤ新鮮ナル空氣ノ中デアリテ糸ヲ作ツテ生活シテ
居ル所ニ過般朝日新聞デ幾許ノ優良思ノ審査
ノ結果入賞者ハ幾クアリマシタカ 實ニ我々ノ予想ヲ裏
切リテ悲シクハ結果ヲ表シタデアリマセンカ 中ニハ缺食
思慮サヘ憚ルムアルノデス 呼吸器病患者ガ澤山アリマ
ス我々ハ實ニ戸交ヘサルヲ得ナイノデアリマス

日本ハ今ヤ國際聯盟ヲ脱退シテ或ハ將來ニ世界リヲ向フ

(オ)

ニ廻シテ戦ハネバナラヌ又様ニナルカモ知シマセン差当リヌ那ラ
救フ者リ誰カ一私ハ日本ヲ惜クテ他ニ絶体ニナイト。
信ズル者デス、石油尚懸何レモホヤク、
シテハ居ラシマセン私共ハ俸給ノ何割カヲ打ツタ切ラシ
テ不穩ナ行動ニ出タリ或ハ海軍演習ニ出掛ケ様ト
ズレバ上陸シテ帰テ来ナイ様ナ英米ノ海軍ノ様ナ状
態デハ到底枕ヲ高ウシテ休ムトハ出来マセン如ク
我が海軍ノ七割ハ農村ノ子弟デス總テハ人ノ尚懸
デス私ハ海軍ノ古賀中尉ニ「農村ノ青年達ハ海ヲ知
ラヌガドウダネ」ト仰クテミタラ古賀身ハ「矢ッ張リ農村
ノ子弟デナケレバ駄目ダ」ト云フテ居リマシタ以テ其
ノ一端ヲ知ルベシト思ヒマス此ノ也テ国防尚懸ニ就
テノ私ノ説明ハ終リト致シマス

茲ハ国防ト農村向懸ニ就テ！

(七)

日本ノ精神生命ハ一君萬民の愛國同胞的精神
ニ在ルト信ゾマス若シモ是シガ飽コシル様ナ事デモ
アツタナラ日本ハ何トナリマス一致團結シテ来シハコソ
茲迄来タノデアリマシテ今後共亦ソウデ無ケレバナリマ
セン日本ノ國民精神ヲ培養シテ居ル者ハ誰カト云ヘバ
所謂愛國ノ士デアリ志士的愛國者ノ一団デアリマス
而シテ其シハ各階級層ニ在ルデアリマス女ハ軍人一朝奉
アシバ君國ノ爲メニ一身ヲ犠牲ニ供ズルノデス 私人
古賀中尉等ノヤツタ行爲ハ國法ニ觸ルモノデアハア
ルガ彼等ニハ心中一実ノ私心モ無カウタノデス私共ハ
彼等ノ心中ヨク知ラテ居リマス私ハ軍人ハ國民
精神ノ最モ偉大ナル支持者也ト確信スル者デアリ
マス、農民ハ無智ダカウシテ右ニ向ケト云ヘバ左左ニ
向ケト云ヘバ左ヘト云フ俛ニナラテ居リマスカ私ヲシテ

言ハシムルバ鎌倉時代ノ昔カウ所謂兵農一致ノ結
果ガ彼ノ相模タリ時常ヲシテ蒙古ノ大兵ヲ西復滅シ
得タルモノダト信ズル者デス、寔怒トシテ神風ガ吹キ起
ツタ爲メニ一撃ヲニシテ西復滅サシタト云フガ神風ナニカソ
ウ始終吹クモノデハ無イノテス、私ハ目下ノ奴隸的ナル
農村子芽ヲシテ一大覺醒ヲ促シ君國ノ爲メ奮起
セシメネバナラヌト痛感スル者デアリマス

此ハ國民道德デスが是レモ一言ニシテ云ヘバ早イ話ガ
大都會ノ夜ノ景色ヲ眺メテモ一種ノ悲シイ氣持ニナラ
ザルヲ得マセン私等ノ學生時代ニハ未ダダンスホール等ハ
無カツタモノデスが今ヤ到ル處ニダンスホールヤカフエーヤ
私ハ是レ以上ヲヒ度ウアリマセン 曰クステウキガールスト
リートガール等色々ノ事ヲ膚カセウシルモノデス殊ニ最近
ノ性的關係ト来タラ三角關係カウ四角關係果テ八角

度ノ無ク無ク苦々干係ニ迫進クノデス極言コシ
バ生殖器ト胃袋ノ存在ニ外ナラズ迄ニ至リテ居ルノ
デアリマス此ノ外ノ考ハ所謂偽善ガ須ラウ昔ノ群
婚制ニ還シ等ト云フ者ガ出ルニ到ツテハ安良ニ言
同断モ極ニレリトキツベキデアリマス

其ノ莫カラズフト農村ノ状態ハドウカト觀シバ未ダク大
夫デス頻死ノ状態ニ陥ンテハ居リ乍ラモ未ダク一觀ヲ請フ
ル様ナトハ無クデス都会生活ニ比シ未ダク一神聖ナル
家族制度ガ保タシテ居ルデアリマス私ハ日本農民ノ家
族体ナルモノハ日本國家ノ道德体也ト信ズル者デアリマス
今一ツハ農村問題ト保健問題ニ就イテ一言申上げマ
スシバ健全ナル精神ハ健全ナル身体ニ宿ルトハ蓋シ千
古不靡ノ金言デアリマス私ノ場合ニモ亦然リテ私モ今少
シク丈夫デアツタナラバ社会ノ及振興トハナラナカッタカモ判

リマセン近頃ハ國民保健問題が尋常視サシテ居ル様ナ
ナ感ガアルハ甚ダ遺憾ノ極ミデアリマス

日本ハ在りテ一ノ結核國デアリマシテ日本ノ壽命一ハ都
今地ニ於テ平均三十一才ト尙キマスガ今ノ様ナ都會
ノ生活状態デハ今後五年モシバ全滅セルガロウト思
ハレルノデアリマス然ラハ結局農村生活ニ如カズデア
リマス今之リヨ少少瘦セテハ居ルケシガ今少し不況ガ
打倒サルレバグロウ大ニ行クノデアリマス

次ハ在りノ大勢ト農村問題ニ就イテ

私ハ今迄國家ノ重要問題ニ就イテ農村ノ持ツ重大
サヲ認クテ来タト思ヒマスガ是レヲ對外的ニ觀ク時
如何ナル状態ニ在ルカト云ハバ其レハ恰モ水ト魚トノ關係
ニ在ルノデアリマス農村之ビテ日本ノ國家ハアリマセン曰
本ヲ救フ者ハ農村デアルト信ジマス在りノ各國ハ今ヤ

自給自足ヲ定ムベク汝カカチテモ英國獨逸米
國伴ヲ利皆然リテス更ニ今一ツ觀ト莫クテ申
シコエレバ私ハ今チ西洋物質文明ハ没落期ニ在ルモノ
ト信ジテ居リマス是レヲ救フ者ハ東洋精神文明デ
アルトハエドワード・ハートベスター・ヤシヨウレ・ハートワト等
西洋人自カチ明言シテ居ル處デアリマス
西洋文明ハ何デモ彼デモ物質一デ誠ニ悲シクキモ
ノテス我々ハオ互ヒニ曰キ人デス愛國同胞愛ニ生キネバナ
ラヌノデアリマス

右ヲ以テ裁判長ハ開廷ヲ宣ス時ニ午後三時三十分
右 及 (通) 報 候 也

特高秘二第四七四五號

昭和八年

十月五日

警視總監 藤沼

庄



内務大臣 山本 達雄 殿
各 廳 府 縣 長 友 毅

五一五事件民間側關係者公判

狀況ノ件

(第五報)

標記ノ件ニ關スル東京地方裁判所第五回公判狀況左
記ノ通リ

記

一日時 十月五日 至午後九時三十分
場所 前回之全



一 裁判長並係判檢事及書記 全

一 被告人 全

一 弁護人 (出席者)

石川 伊藤 池田 岩松 花井 星野 若井 亀山 柏木

榎村 川井 栗原 山本 前川 深作 菱沼 遠藤 森田

関口 杉浦 (以上二十名 鶴澤 外四十名欠)

一 傍聽人

特別傍聽人 三名

家族近親者 二名

一般 一名

一 法廷内ノ状況

弁護人及新記者ハ開廷前ニ入廷シ正午前九時裁判長以下着席全九時六分被告全部ノ出廷ヲ終リ前同全様葉書型大ノ「メ」ト鉛筆ヲ各被告ニ渡シ

稍遲レテ令八分傍聽人ノ入廷シ許レタリ

二 公判状況

午前九時九分文部長ハ橋ト呼ビ訊問席ニ馳タセテ答回ニ引續キ社会改造具伴業其ハ四ノ全解禁ニ在任ニ於ケル農村状態一斑ノ

一 序親

一 米其他ノ一及当收入

二 農家一戸毎收支状態

三 国民社会経済的観点ヨリ親タル農村ノ経済状

態

四 農村窮乏ノ物語ル一ニノ实例

ト訊問スレバ被告橋ハ本日令採罪紙約五、六枚取トモ覺シキ部厚ナキ積テ年子ノ上ニ置キ之ヲ繰廣ゲケラ

陣述之移りお罷の山川、項目ヲ終り合下の時五十分休
憩合十一時三十分再罷更之お罷(二)亦ノ之項目之付陣述シ
午後零時休憩合一時五分再罷「其ノ五」昭和六年
政変之休テ更之悪化セル農村状態シテ付陣述ヲ進メ「其ノ
六」最近ニ於ケル私ノ農民運動シテ述ベ合二時十五分休憩
合三十分再罷「其ノ七」最近ニ於ケル社会状态一班シテ付
更ニ「結滞」ヲ爲シ合三時三十分無事終リシタルモノナルガ陣
述中、報告橋ハ感極マリテ男泣キ泣ク事哲シ為メニ情
廷肅トシテ眼泣キノ声サハ洩レ又一方お罷長ハ報告ラ
勢ハリ「大分疲シク様分カラ腰ヲ掛ケテモ宜シイ」ト情味
ル「徳交」ヲ示シ順調ナル公報ノ進リヲ見タリ
お罷文書長ノ訊官ニ對シ

橋 夫レヨリお申上タイエトハお固申上マシク農村ノ社会
状態ニ付テ申進シタエト加アルノテアリテス夫レハ農

業ハ機械化サレナイト誤解サレル様ニ申上テ来タト思
フ夫レハ工業ト合ジ様ニハ行カナイカ甚傷ニ於テハ機械化
サレルモノニアリ又當然ニサケレハナラン夫レシ
機械化スルノハ
何ウスレバ良イカ之ハ非常ニ重大ナ官題テアル工業ニ於ケ
ル様ナ悲氣カシ以テヤルト云フ様ナ事ハ農業ノ本質
上許サレナイ夫レハ家族体ヲ主体トシテヤラサケレハナラ又
之ヲ考ヘル時ニ電氣ト云フモノニテ又之組合ヲ起シテ大キク
スルモノトモ出来又電カノ配分スルモノトモ出来ルは平ハ世界
ニ此類ノ無イ程多ニ惠マレテ居ル即チ此ル処ニ川ガア
ル以テカカ電氣ヲ以テ農村ニ普及シテラハ一夫ニ妻子張
ラシイ革命約ナ系ガアルト思フ者一ツ私ハ都市ノ風
紀ノ廢頹ヲ申ヒモレシカ斯様ナモノヨリモ甚ク甚クシイノ
ハ思慮上ノ廢頹テアル甚尙野蠻子女史ノ如キ女子ニ對
シテ貞操等ハ官題テハナイト云ヒニ平場ニホノ如キハ自内

悪事之ヲ説クカ之ハ悪事之至ト云々ハナク悪事之精実
之家ヲテイル斯様ナモカ我思志界之風靡ニテ居ル私ノ
私ニ憂ヒテ正マタイモノハ所會改造ノ積極的ト指導ヲ子
理ノ一般ハ亡國約テイルハ所謂「サニチカリカム」無政府
主義ニ等テアル大學ヲ教育等ヲ言フケ故日ノ日者
背負クテ立タケレバナラヌ者ガ之等ノ思志ヲ宗義約
ニ信シテ居ル私ノ憂ハ之ヨリ所ニハナイト思フ
世産主義ニ於テハ人格モ無ケレバ精神モ亦徒モ家
族体ニ至民哲全體ニ生々様ト云フコトモナイ及宗
運動スラ日本ニ捲起ソテ居ルテハナイカ墮落シタ宗義
モアルカ莫ノ宗義ト云フモノガアルト私ハ信ニテ居ル又
英美德ノ勞働會等式ノモノテモ利己約テ至家ヲ體至ト
云フ觀念ハ勿論ナク之ハ一切ノ都市ニ於テ何人ト云フモ
ノガ基樁ト爲リ何人ヲ土台トスルカラ至家ハ全テ自分

ノ教デアルカノ様ニ思ヒ後ツテ家族等又皆及ク切シナイ
云ウ救フノ一何ウシテ又吾々ノ為スル至極ノ主義テアル
佛教ノ説ク処神ノ事也如クニ此カ災至ルモノテアルカ
實ニ農林ハ此ノ根幹ヲ為スモノテアル以上テアリマス
次ニ至解禁ニ在ルニ於ケル農林状態ノ序説ニ付
井ニお花丸ノ説ニ日本ノ農民ハ至解禁ニ依リテ何物ノ打撃
ハあり得ナイ何故ト云ハ彼等ハ米ヲ自ラ作リ居ルト
云フヤ一節トシテ記憶シテ居ル後者代議士ニ誰一人以
テ見解ニ蒙リ降クヤキ意見ヲ試シテ者ハ十カツク之以
テシテモ井上氏ト令様ノ意見ト思フ何ト云フテモ
吾等ノ感力ハ農民テアル女ハ食物ヲ作リ居ルカラシ
ト云フ見解カ一級約ニアルカ誰ヨリモ米カ食(ナイト云フ
トハ米ヲ作リ居ル農民自身テアル最近農民ノ言ニ
新穀ノ喰ヒ始メト云フ言葉カ依リシテ居ル全ク

禪僧ノ官券ノ標ヲ註釋スルカヘテケレト解ラント思フガ新
穀ハ九月ヲケレバ獲レナイモノヲ五月ニ令良ク短メルト云フ
ストハ九月ニ獲レル新米ヲ賣ルニテ地主ヤ物持カラ米ヲ傳
リルノコトアルサウシテケレバ農民ニハ米カタイノコトアル後を
ハ勿論百姓ノ生命トモ云フベキ肥料ヲ買フ方ハ三月カラ
四月ニ買フノコトアルガ最近肥料屋ハ現銀ヲケレバ高クナ
ク至性ハ肥料ガ生命ヲアリ之カケレバ都會ノ勞働志
加シ業シタト令ジテアル外カラ何ヲ置イテモ肥料ヲ買
ハケレバナラ又之ガ恐レハ至性ノ現状アル
方ハ今年ノ重要ナル後ニテ五月カ四月ニ四月ハ五月ニ切リ上
ケ又其ノ数量ガ増シテリクノコトアル
斯様ト恐惶トシ状態ノ下ニ押シ進メラレテ米タカ遂ニ恐口
シイ在途ハ井上博之助氏ニ依リ塔ヲ起サレシ昭和五年
一月十一日ニ断リサレシ全解禁アル

石五丁銀カウシ居夕帰川高馬が十四年ニ為リ十五年五丁銀
ニ暴落シ更ニ十五年ニ割ルト云フ悲慘ナ状態ニ連即キ後
サレタノデアール

最モ重キナ甘藷ハ何ウカト云フト六年カウシ七年任シテ居夕ノ
カニ年五丁銀ニ連落キ大ト上等ノカデ玉蘭ハ八拾錢ト云
フ言六十五錢ニ為リ大麥小麦蔬菜ノ如キハ何ノ段ノ様ナ小
サナ市場デハ瓜茄子等ハ一日引張ツテモ高價抑シテ今ノ人
泣クノ路傍ニ捨テ、来夕ト云フ悲心シムベキ事ニ云カ發来
シタ

吾性ハ云ク粒々辛苦シテ居ん如ク一ニ云キ辞ヲ言フト
テ畑ノ草ハ高敷ハナイ夏ノ寒天ニ頸カラ純キ付ケラレテ
作ツタモノカ斯クノ通り新感涙下レニハ居ラシナイ
歩調ヲ合セテ他ノ物が安クナルナラバ良イト思フカ
処カ儲金ハ何ウカ利子テモピタ一文及ケタカ及程カ何レ

櫛 才

丈ヶ減シタカ昭和五年ノ事ニナルト云テ然カナク内ニ新
穀々食ニ短メタ之ガ項目ニ互ウテ申ヒマス

米其他ノ一及当收入ニ付テ

米ノ一及歩者ノ一收入ガ何ウカト云スト先ウ米ニ付テ
申上ケマス

生産費ニ付テ肥料以テ設備費ノ一及概肥料ノ一及
歩者リハ十二年カ必要トサレテ産ル以テ是設備費ノ一
及價ガ五歩其他ニ十二年昭和五年ノ一計算ナ
ル田一及歩ニ對シテ七年ト云テト云ル
(以下略)

帝國農産會デハ一石ノ生産費ハ二十七圓農林省デハ
二十六圓ト云フコトニウテ居ル、收入ノ才ハ最上トシテ一
反先ニ石五斗トシテ茨城県デハ庭先デ石十四圓或
ハ十三圓五斗或デ賣却シテ居タガ之ヲ十五圓トシテ
三十七圓五十錢トナルガ之ヲ三十七圓トシテ支出ノ二十
七圓ヲ差引キ十圓之ガ一反先ノ勤勞報酬トモ未
バナラン、此十圓ヲ以テ一人當リノ人夫賃何幾ニナ
ルカト云フト一反先ノ新要勞力ハ一般的ニ勞働者
ヨリ非常ニ働タガ之ヲ勞働者並ニ見テ二十三人カラニ
十五人トイフコトニナル、一般ノ農家ハ三十人以上モ先ノ
カネバナラヌ又処ニ田地ヲ持ツテ居ルノガ普通デ二十
人位デハ刈取出來チイソレデ二十五人カラ二十人ノ間ト
見テ二十三人デハ一人當リ四十才ニ十人ハ一人當リ五十
才、夫レハ最上ノ二石五斗ヲ獲ウタ場合デ之ヲ二石ノ